第177号　令和８年（2026年）10月25日発行

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報

向上と進展

［発行所］公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542　FAX 03-5304-5569

令和８年度上半期の事業を終えて

会長　**松本 正之**

日頃は、日本学生陸上競技連合の運営に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この上半期は、2026日本学生陸上競技個人選手権大会、天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会という２つの主催競技会を開催いたしましたが、その間、多くの関係各位のお力添えにあらためて感謝申し上げます。

日本学連の組織運営の要となります会議の開催につきましては、定時理事会として５月16日開催の第79回理事会、役員改選に関わる６月の第18回定時社員総会、また役員改選後最初の第80回理事会、理事会開催のための企画委員会や各専門委員会の開催など、本連合の運営に関する決議事項や諸報告など、必要な議題を検討し、進めてまいりました。

日本学連シーズン幕開けとなる４月開催の日本学生陸上競技個人選手権は、対校戦とは違い個人の力が試されるより良い機会であったと思います。また、暑熱対策のため今大会は日本インカレ10000ｍを併催いたしました。台湾の代表選手と競い合う競技もあり、好記録が続出する大会となりました。本大会が、今シーズンにおける選手たちのさらなる飛躍へとつながる、確固たる足がかりとなったものと考えております。

今年の日本インカレは神奈川県・日産スタジアムにて開催いたしました。荒天の中でも学生新記録や大会新記録が誕生する大会となり、学生アスリートの底上げと進化がはっきりと証明された舞台でした。３日間のうち２日間は大雨の日程となりましたが、全種目無事に終了できましたことは、一般財団法人神奈川陸上競技協会、一般社団法人関東学生陸上競技連盟など関係の皆様のご協力の賜物であり、改めて深謝申し上げます。

なお、実業団・学生対抗は、日本選手権で活躍した実業団選手が多数出場予定でしたが、２つの台風が同時に来襲するという悪天候のために残念ながら中止となりました。来年以降も実業団と共に、この競技会を通じてより多くの方に陸上競技に対する興味・関心を持っていただけるような、より良い大会にしてまいりたいと考えております。

10月からはいよいよ下半期に入り、各種駅伝、道路競技大会が開催予定であります。開催に向け、全国の学生競技者や応援してくださるファンのためにも、地元関係者の方々のご協力を得ながら、努力してまいりますので、学生競技者諸君の一層の競技力の向上を期待すると共に、関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、ご挨拶といたします。

向上と進展会報177.indd　1　2026/10/20　13:32

公益社団法人 日本学生陸上競技連合
会報 第177号（令和８年10月25日発行）

向上と進展

目　次

会長あいさつ　松本正之 …… 1

【大会報告】

天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会 …… 3

【会議報告】

第79回理事会 …… 8

第18回定時社員総会 …… 11

第80回理事会 …… 18

第81回理事会 …… 20

第82回理事会（文書決議） …… 31

【その他】

競技会運営委員会より …… 7

総務委員会より …… 7

「陸上競技研究」発行における令和８年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について …… 33

普通会員数報告 …… 34

賛助会員募集／入会報告／編集後記 …… 35

向上と進展会報177.indd 2　2026/10/20 13:32

【大会報告】
天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会

幹事長　桑原　悠真

1．大 会 名：天皇賜盃第95回
日本学生陸上競技対校選手権大会
2．大会期日：2026年９月５日（土）～７日（月）
3．場　　所：神奈川県・日産スタジアム
4．エントリー数：男子117校1024名、女子114校881名
5．大会総括

神奈川県・日産スタジアムにて、天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。昨年度は東京世界選手権の影響で６月に開催したこの大会ですが、今年は従来の９月に戻しての開催となりました。その中でも、昨今の厳しい暑さに対する暑熱対策として、４月の日本学生陸上競技個人選手権大会で本大会の男女10000ｍを分離開催するとともに、競歩競技については10000ｍから5000ｍに距離を短縮するなど、新しい試みも行われた大会となりました。

９月上旬の開催ということで、日本陸連からもWBGT（暑さ指数）に基づく競技会の実施方針が示される中、大会前から日中で最も暑くなる時間帯の競技をなるべく減らした競技日程を組んだり、ミストファンや冷風機等の暑熱対策物品を用意したりして、選手や競技役員の負担を軽減できるような準備を行いました。しかしながら、大会当日は荒れた天気に見舞われ、特に大会２日目および３日目は寒さを感じるほどの荒天となり、競技役員にはカイロなどの寒さ対策物品を配布する事態となりました。また、今回の会場となった日産スタジアム周辺（新横浜公園）は、会場近くを流れる鶴見川の氾濫を防ぐために、遊水地の機能を併せ持っており、大会２日目の午後からは補助競技場や投てき場を含むスタジアムの周辺施設が順次閉鎖となりました。さらに、それに伴って大会３日目に投てき場で実施予定だった女子円盤投は急遽日産スタジアム内での実施となり、その他３日目のフィールド競技でも競技開始時刻を変更した種目がありました。

しかし、このような厳しい環境の中でも、選手たちは各校の誇りを胸に力を発揮し、ハイレベルな熱戦が繰り広げられました。大会１日目、トラック競技最初の決勝種目となった女子1500ｍでは日本学生記録保持者の田島愛理選手（順天堂大）が他の選手を圧倒する強さを見せて優勝し、２位の木田美緒莉選手（順天堂大）とともにワン・ツー・フィニッシュを決めると、続く男子1500ｍでは川口峻太朗選手（順天堂大）と中川拓海選手（順天堂大）がワン・ツー・フィニッシュを果たし、順天堂大がスタートダッシュを決めました。距離が短縮されたことによりスピードレースが展開された5000ｍ競歩は、男女ともに最後まで大接戦となり、会場は大きく盛り上がりました。フィールド競技では男子棒高跳で上位３名が５ｍ40で並ぶ熱戦が繰り広げられると、女子砲丸投では日本選手権を制した坂ちはる選手（大阪体育大）がここでも強さを見せて優勝。男子やり投では清川裕哉選手（東海大）が鈴木凜選手（九州共立大）と２cm差の激戦を制して優勝しました。

大会２日目、女子100ｍハードルでは髙橋亜珠選手（筑波大）、男子110ｍハードルでは古賀ジェレミー選手（順天堂大）が優勝し、筑波大と順天堂大はそれぞれ総合優勝へ向けて１歩抜け出しました。実力伯仲の女子100ｍでは柴藤凜選手（福岡大）が接戦を制すると、男子100ｍは今季絶好調の山本匠真選手（広島大）が勢いそのままに先頭で駆け抜けました。また、女子5000ｍでは田島選手が1500ｍとの２冠を達成。日本代表経験者が揃いハイレベルとなった男子400ｍは、平川慧選手（東洋大）が林申雅選手（筑波大）に競り勝って大会新記録で優勝しました。女子４×100ｍリレーでは、日本学生記録を持つ福岡大学が大会新記録で優勝。フィールド競技では男子三段跳アジア大会代表の宮尾真仁選手（東洋大）の強さが光り、２位に50cm以上の差をつけるビッグジャンプを見せました。

競技日程の変更があった大会３日目は、男子800ｍアジア大会代表の萬野七樹選手（関西大）が意地を見せて優勝。女子200ｍでは髙橋選手が100ｍハードルとの２冠を達成しました。女子七種競技では仮屋愛優選手（日本体育大）が昨年の悔しさを晴らす優勝を飾り日本体育大が総合優勝へ向け追い上げを見せましたが、女子棒高跳では、村田蒼空選手（筑波大）が小林美月選手（日本体育大）との一騎打ちを制して優勝し、総合優勝を再度手繰り寄せました。そして、ト

向上と進展会報177.indd 3　2026/10/20 13:32

トラック最終種目となった男子4×400mRでは、アンカーで逆転した中央大が3分03秒30の学生新記録で13年ぶりに優勝を飾った（後列右から時計回りに）1走・庄籠大翔、2走・植松康太、4走・田邉奨、3走・濱田幸生大

ラック競技最後の種目となった男子４×400ｍリレーでは中央大がアンカーで逆転。昨年東洋大が樹立した日本学生記録を更新して優勝を果たしました。

学校対校では順天堂大が５連覇を果たし天皇賜盃を、筑波大が２連覇を果たし秩父宮賜杯を獲得しました。また、総合優勝に貢献した選手に贈られるSMBC賞は、古賀ジェレミー選手と髙橋亜珠選手が受賞しました。

最後に、本大会を無事に終了することができましたのは、特別協賛をいただいている三井住友フィナンシャルグループをはじめ、協賛や大会協力をいただいている各社、大会運営にご尽力いただいた神奈川陸協の皆様や各地区学連など関係各位のご協力があってのことと、深く感謝申し上げます。

男子110ｍＨはU20世界選手権銀メダリストの古賀ジェレミー（順天堂大）が13秒57（−0.7）でルーキーV。同種目の順天堂大勢の連覇を「7」に伸ばした

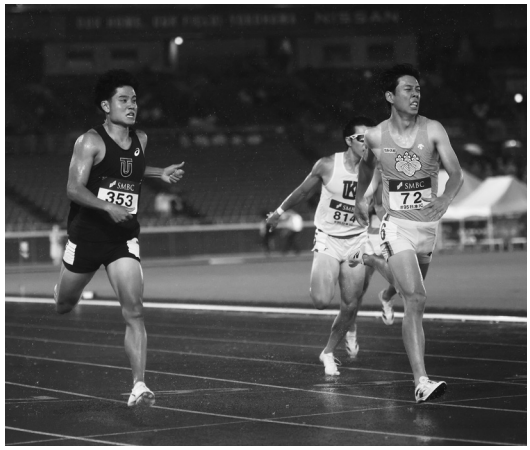
男子は順天堂大が107点を積み上げて6連覇でV34。男子中長距離やお家芸とも言える110mHで得点を量産した

女子100ｍＨは髙橋亜珠（筑波大、左）が終盤で逆転し、13秒43（−0.9）で初優勝。200ｍも23秒79（−0.5）で2連覇を飾り、この種目の組み合わせでは80ｍＨ時代を含め、1965年の助川立子（日大）以来61年ぶり4人目の2冠達成

学校対校の女子は筑波大が104.25点で2連覇、通算29度目の総合優勝を達成。最上級生を中心に得点を積み重ねた

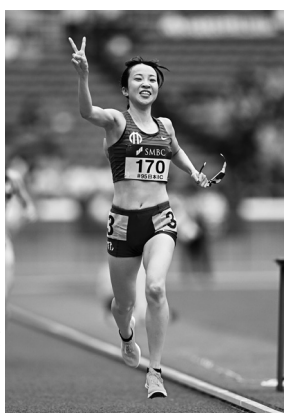
向上と進展会報177.indd 4　2026/10/20 13:32

激戦となった男子100mに10秒22（−1.0）で初優勝を飾った山本匠真（広島大）。広島大としては初で、中四国勢としても25年ぶりの同種目制覇だった



男子400mは世界リレー代表の平川慧（東洋大、左）が45秒37の大会新記録で、アジア大会代表の林申雅（筑波大）を0.04秒抑えた

女子4×100mRでは福岡大が昨年樹立した大会記録を0.12秒更新する44秒19でV2。3走・井関梨乃からアンカー・山形愛羽へバトンをつないだ



女子中長距離では田島愛理（順大）が2冠を達成。1500m（写真）では4分14秒81で2連覇、5000mは15分56秒87で制した

男子800mは名古屋アジア大会代表の萬野七樹（関西大）が1分47秒34で初V。同種目の関西大勢では、1967年の池田豊以来59年ぶりの優勝となった

学生歴代8位タイとなる1m84をクリアし、女子走高跳を2年ぶりに制した矢野夏希（早大）

女子砲丸投で日本選手権で2連覇している坂ちはる（大体大）が15m59で初優勝

天皇賜杯第95回日本学生対校選手権成績

9月5日〜7日　神奈川・日産スタジアム ※10000mのみ 4月24日 神奈川・レモンガススタジアム平塚

男子

●100m(-1.0)・6日

①山本匠真（広島大M2）	10.22
②小室歩久斗（中央大2）	10.35
③大石凌功（東洋大4）	10.41
④宮下　峻（大東文化大4）	10.42
⑤西岡尚輝（筑波大2）	10.47
⑥中村大空（東洋大3）	10.49
⑦黒木海翔（中央大3）	10.51
⑧香山勇輝（日本大4）	10.62

●200m(+0.1)・7日

①鈴木慎吾（東海大3）	20.50
②舘野峻輝（東洋大4）	20.63
③飯田大翔（順天堂大2）	20.85
④吉田吏玖（順天堂大1）	20.91
⑤田中統也（岡山商科大M2）	20.95
⑥若菜　敬（早稲田大2）	20.97
⑦舟木宝月（大東文化大4）	21.07
⑧アブラハム光オシナチ（関西大2）	21.18

●400m・6日

①平川　慧（東洋大3）	45.37
②林　申雅（筑波大4）	45.41
以上大会新	
③谷野佑成（関西大3）	46.03
④白畑健太郎（東洋大3）	46.20
⑤橋詰竜輝（筑波大2）	46.45
⑥田邉　奨（中央大3）	46.46
⑦大石亮太（東洋大2）	46.54
⑧小幡丈士（関西学院大3）	47.36

●800m・7日

①萬野七樹（関西大3）	1.47.34
②吉澤登吾（東京大2）	1.47.62
③盛耕太朗（東海学園大4）	1.48.71
④渡辺敦紀（筑波大1）	1.49.53
⑤國森郁光（山口大4）	1.49.71
⑥渡邉睦樹（日本体育大4）	1.50.77
⑦市村瞭太郎（慶應義塾大3）	1.50.86
⑧水嶋優斗（早稲田大4）	2.01.54

●1500m・5日

①川口峻太朗（順天堂大2）	3.45.15
②中川拓海（順天堂大4）	3.45.86
③水野颯也（立命館大2）	3.46.00
④寺田向希（中央大3）	3.46.20
⑤森玉鳳雅（関西大4）	3.46.88
⑥菅原　爽（環太平洋大2）	3.47.33
⑦森　亮太（順天堂大1）	3.48.16
⑧岩下和史（早稲田大4）	3.48.85

●5000m・6日

①ベナード・キクンビ（創価大1）	13.49.84
②菅野元太（創価大1）	13.50.75
③井上朋哉（順天堂大2）	13.51.72
④山口竣平（早稲田大3）	13.59.15
⑤水野颯也（立命館大2）	14.07.25
⑥南部悠陽（同志社大4）	14.11.99
⑦岩田玄弥（愛知工業大4）	14.16.21
⑧山下慶馬（関西学院大4）	14.17.52

●10000m・4月24日

①山口竣平（早稲田大3）	27.59.47
②吉岡大翔（順天堂大4）	28.12.22
③吉倉ナヤブ直希（早稲田大3）	28.13.07
④川﨑　颯（筑波大4）	28.15.69
⑤山本　悠（順天堂大3）	28.19.16
⑥植阪嶺児（駒澤大4）	28.23.41
⑦小池莉希（創価大4）	28.40.22
⑧辻　　誉（中央大2）	30.23.01

●110mH(-0.7)・6日

①古賀ジェレミー（順天堂大1）	13.57
②小口蒼葉（法政大2）	13.77
③廣冨葵士（国際武道大4）	13.93
④宮本皓寿（順天堂大3）	13.96
⑤浅井惺流（法政大2）	14.04
⑥打田快生（順天堂大4）	14.06
⑦田中洸希（関西学院大4）	14.15
⑧似内陸斗（岩手大M1）	14.30

●400mH・7日

①菊田響生（法政大2）	49.07
②柳田聖人（東洋大4）	49.35
③渕上翔太（早稲田大3）	49.53
④内藤　悠（中京大2）	49.54
⑤酒井大和（中央大4）	49.95
⑥橋本諒生（順天堂大3）	50.08
⑦高橋昂生（京都大M1）	50.14
⑧狩野健太（青山学院大M2）	50.27

●3000mSC・7日

①佐々木哲（早稲田大2）	8.44.46
②山﨑草太（中央大4）	8.44.93
③辻　昂介（順天堂大3）	8.45.71
④キプゲノ・ケネス（札幌学院大大2）	8.51.77
⑤安田怜生（順天堂大2）	8.52.12
⑥谷﨑　然（順天堂大1）	8.53.34
⑦荻原太陽（東海大2）	8.54.11
⑧藤本悠太郎（鹿児島大5）	8.57.36

●5000mW・5日

①中島佑之（山梨学院大4）	18.14.60
②吉迫大成（東京学芸大4）	18.24.06
③逢坂草太朗（東洋大3）	18.40.29
④梅田和宏（日本大4）	18.49.23
⑤長田隼人（明治大4）	18.53.49
⑥高橋優喜（早稲田大4）	18.57.43
⑦玉春汰造（新潟食糧農業大2）	19.03.18
⑧六本木直斗（新潟食糧農業大2）	19.09.41

●4×100mR・6日

①東洋大	39.04
（北村，大石，山本，山田）	
②中央大	39.14
（小室，黒木，植松，エケ）	
③早稲田大	39.24
（髙須，水野，由井，関口）	
④法政大	39.89
（松谷，櫻井，黒沼，齋藤）	
⑤京都産業大	40.01
（板垣，東，中島，松本）	
仙台大	失格
（千田，守屋，梅津，高橋）	
大東文化大	失格
（宮下，斉藤，舟木，春木）	
日本大	失格
（川上，田邉，香山，清水）	

●4×400mR・7日

①中央大 3.03.30＝日本学生新，大会新	
（庄麓，植松，濱田，田邉）	
②筑波大	3.04.19
（橋詰，髙木，林，久保）	

向上と進展会報177.indd　5　　2026/10/20　13:32

③早稲田大　3.05.80
(松本, 森田, 渕上, 権田)
④日本大　3.06.48
(矢ヶ部, 木村, 齋藤, 菊田)
⑤中京大　3.06.50
(内藤, 杉山, 上治, 小島)
⑥日本体育大　3.06.90
(服部, 大谷, 小澤, 岩井)
⑦福岡大　3.07.03
(竹下, 櫛田, 栗原, 小坂)
⑧東洋大　3.07.61
(大石, 津田, 白畑, 平川)

●走高跳・7日
①中谷魁聖（東海大２）　2.16
②チュクネレ・ジョエル優人（筑波大４）　2.13
③藤原虎太郎（東京学芸大４）　2.10
④佐藤卓巳（順天堂大３）　2.10
⑤谷垣雄大（日本大２）　2.10
⑥山中健太（東海大４）　2.05
〃須崎遥也（慶應義塾大４）　2.05
〃元平優仁（新潟医療福祉大４）　2.05
〃松田永遠（日本大４）　2.05
〃福士　湊（東海大３）　2.05
〃伊藤望亜（岐阜協立大１）　2.05
〃井開琉未那（新潟医療福祉大３）　2.05

●棒高跳・5日
①吉田陸哉（関西大４）　5.40
②北田琉偉（日本体育大４）　5.40
③原口篤志（大阪経済大Ｍ１）　5.40
④鈴木悠聖（育英大２）　5.30
⑤井上直哉（日本体育大１）　5.30
⑥菅野航太（日本体育大４）　5.20
⑦長野董也（大阪教育大２）　5.20
⑧大西亮暉（関西学院大１）　5.20

●走幅跳・5日
①大西勧也（天理大３）　7.91(+1.8)
②元木涼介（日本大３）　7.83(+3.2)
③藤原孝輝（東洋大Ｍ２）　7.81(+0.3)
④武岡世航（日本大２）　7.80(+2.3)
⑤高橋朝陽（東海大４）　7.79(+0.5)
⑥平林駿登（順天堂大２）　7.77(+1.3)
⑦植村亮太（中京大３）　7.69(+1.5)
⑧大森恵偉音（順天堂大１）　7.60(+0.7)

●三段跳・6日
①宮尾真仁（東洋大４）　16.21(+1.1)
②金井晃希（順天堂大４）　15.69(+2.1)
③吉田康晟（筑波大４）　15.62(+1.4)
④鷲頭慶士（順天堂大３）　15.58(-1.5)
⑤佐藤圭悟（日本大３）　15.39(+1.1)
⑥織田誠也（立命館大４）　15.35(+1.9)
⑦吉田　輝（日本体育大３）　15.34(+1.2)
⑧小口海クリストファー（日本大３）　15.28(+0.5)

●砲丸投・7日
①泊　瑶平（環太平洋大４）　17.52
②渡辺豹冴（新潟医療福祉大４）　17.45
③山田暉斗（法政大４）　17.14
④桑添喬偉（日本大３）　16.78
⑤アツオビン・ジェイソン（福岡大Ｍ２）　16.52
⑥田村　凪（新潟医療福祉大２）　16.13
⑦成田卓登（東海大２）　15.78
⑧藤森勇輝（順天堂大Ｍ１）　15.66

●円盤投・6日
①山口翔輝夜（筑波大４）　50.44
②ワタロ・レオ（国際武道大３）　50.03
③亀井　翔（東海大３）　49.12
④鴨澤青海（日本体育大Ｄ１）　48.65
⑤東　琉空（九州共立大１）　48.61
⑥池川一哲（順天堂大４）　48.59
⑦田窪一翔（日本大２）　48.04
⑧上沢勇人（東海大３）　46.69

●ハンマー投・5日
①髙橋慶太（九州共立大２）　68.46
②アツオビン・アンドリュウ（九州共立大２）　67.61
③浅利磨海（流通経済大３）　64.67
④山口翔輝夜（筑波大４）　63.77
⑤尾濱太陽（日本大３）　63.45
⑥吉田　匠（四国大Ｍ１）　62.98
⑦秋山玲二郎（四国学院大４）　62.74
⑧伊加海璃（福岡大３）　62.21

●やり投・5日
①清川裕哉（東海大Ｍ１）　75.12
②鈴木　凜（九州共立大Ｍ２）　75.10
③國安大悟（国士舘大３）　73.75
④鈴木凰士朗（中京大２）　73.42
⑤清野康介（筑波大４）　72.46
⑥谷口大翔（順天堂大３）　72.00
⑦外島大翔（日本体育大４）　69.87
⑧森澤知慶（筑波大３）　69.23

●十種競技・5～6日
①山本湧斗（大阪体育大４）　7158
②羽鳥凌生（群馬大４）　7049
③山崎楓太（東京学芸大４）　7019
④高橋　諒（慶應義塾大３）　6940
〃宮下輝一（筑波大１）　6940
⑥石本澄空（筑波大２）　6939
⑦河原怜音（順天堂大３）　6905
⑧橋本秀汰朗（国士舘大Ｍ２）　6870

女　子

●100ｍ(-1.3)・6日
①柴藤　凜（福岡大３）　11.78
②藏重みう（甲南大４）　11.81
③永石小雪（立命館大Ｍ１）　11.82
④佐藤葵唯（青山学院大４）　11.88
〃秋澤理沙（中央大１）　11.88
⑥山形愛羽（福岡大３）　11.94
⑦上野叶夢（関西福祉大３）　12.01
⑧山崎心愛（日本体育大１）　12.04

●200ｍ(-0.5)・7日
①髙橋亜珠（筑波大４）　23.79
②前田美結子（福岡大４）　23.99
③秋澤理沙（中央大１）　24.12
④佐藤葵唯（青山学院大４）　24.18
⑤山形愛羽（福岡大３）　24.21
⑥児島柚月（立命館大４）　24.22
⑦藏重みう（甲南大４）　24.50
⑧吉永葉月（中央大４）　24.97

●400ｍ・6日
①中尾柚希（園田学園大４）　53.80
②佐藤志保里（順天堂大４）　54.40
③児島柚月（立命館大４）　54.42
④齋藤朱里（立命館大２）　55.35
⑤加藤涼音（愛知淑徳大４）　55.36
⑥江原美月優（福岡大３）　55.53
⑦山本真菜（早稲田大４）　56.06
青木アリエ（日本体育大４）　棄権

●800ｍ・7日
①勝くるみ（筑波大４）　2.05.99
②佐々木葉音（筑波大１）　2.08.26
③木田美緒莉（順天堂大１）　2.08.80
④西田有里（立命館大３）　2.09.05
⑤亀井咲里（京都教育大３）　2.09.10
⑥長島結衣（順天堂大３）　2.10.67
⑦篠田心晴（筑波大１）　2.11.29
⑧平野里歩（環太平洋大３）　2.13.59

●1500ｍ・5日
①田島愛理（順天堂大４）　4.14.81
②木田美緒莉（順天堂大１）　4.17.57
③相場茉奈（大東文化大４）　4.18.08
④篠田心晴（筑波大１）　4.21.52
⑤田中柚良（筑波大３）　4.21.98
⑥近藤希美（名城大３）　4.22.02
⑦太田垣楓華（園田学園大４）　4.22.40
⑧遠藤瑞季（大阪学院大２）　4.22.70

●5000ｍ・6日
①田島愛理（順天堂大４）　15.56.87
②本間　香（城西大２）　15.58.20
③野田真理耶（大東文化大４）　16.02.92
④石上栞理（順天堂大４）　16.03.54
⑤秋竹凛音（大東文化大２）　16.04.88
⑥小川陽香（立教大４）　16.05.62
⑦力丸　楓（名城大４）　16.05.94
⑧武田胡春（中央大３）　16.06.40

●10000ｍ・4月24日
①サラ・ワンジル（大東文化大４）　31.23.69
＝大会新
②木村真桜（名城大１）　32.31.56
③臼井瑠花（筑波大２）　33.44.15
④飯田和代（日本体育大３）　33.48.67
⑤隅田美羽（玉川大４）　33.51.19
⑥白川朝陽（筑波大３）　33.53.45
⑦三宅優姫（拓殖大３）　33.55.08
⑧小林日香莉（東北福祉大４）　34.00.49

●100ｍH(-0.9)・6日
①髙橋亜珠（筑波大４）　13.43
②小寺彩貴（順天堂大３）　13.49
③藤原かれん（園田学園大４）　13.73
④井上凪紗（青山学院大１）　13.81
⑤加藤美都（青山学院大１）　13.85
⑥中村真琴（日本体育大４）　13.88
⑦松田晏奈（早稲田大２）　13.92
⑧金山由依（中央大４）　14.13

●400ｍH・7日
①ガードナ・レイチェル麻由（早稲田大１）　57.55
②千葉史織（早稲田大３）　57.74
③野間　葵（立命館大４）　58.54
④和佐田真広（中京大４）　58.64
⑤夏目紗彩（日本体育大４）　58.90
⑥原田エミリー（筑波大３）　58.98
⑦中嶋愛佳（東京女子体育大４）　60.27
⑧葛原沙知（京都教育大４）　61.03

●3000ｍＳＣ・7日
①近藤希美（名城大３）　10.14.96
②丸山あおい（大東文化大２）　10.18.42
③道田衣舞（東京女子体育大４）　10.19.09
④佐藤柚優（日本体育大２）　10.20.84
⑤鈴木美海（筑波大３）　10.20.87
⑥田村遥香（筑波大２）　10.27.15
⑦田中優衣（大阪学院大３）　10.28.57
⑧小松めい（白鴎大３）　10.32.22

●5000ｍW・5日
①堀　伊吹（新潟食糧農業大１）　21.44.38
②中島橙子（早稲田大３）　21.44.85
③奥野　紗（関西大２）　21.54.34
④田畑晴光（山梨学院大１）　21.58.49
⑤宇佐見和奏（金沢学院大３）　22.03.01
⑥内山由菜（順天堂大１）　22.05.17
⑦谷　純花（金沢学院大４）　22.29.88
⑧近藤葉香（金沢学院大４）　22.36.25

●4×100ｍR・6日
①福岡大　44.19
(柴藤, 前田, 井関, 山形)
②青山学院大　44.77
(成田, 杉本, 井上, 佐藤)
③甲南大　45.06
(藏重, 岩永, 麻生, 税田)
④立命館大　45.32
(岩森, 永石, 福井, 児島)
⑤中京大　45.48
(木原, 三輪, 前田, 中野)
⑥東京女子体育大　45.72
(上田, 宮阪, 三島, 栃澤)
⑦園田学園大　45.83
(谷, 江角, 浅田, 村田)
⑧日本女子体育大　46.17
(長原, 齊藤, 三浦, 牧野)

●4×400ｍR・7日
①立命館大　3.36.78
(伊藤, 児島, 福井, 齋藤)
②福岡大　3.37.03
(江原, 柴藤, 長町, 内山田)
③青山学院大　3.37.08
(瀬田, 富田, 佐藤, 山内)
④早稲田大　3.37.40
(木下, ガードナ, 山本, 千葉)
⑤園田学園大　3.37.78
(好井万, 好井愛, 田中, 中尾)
⑥日本体育大　3.40.67
(竹田, 濵野, 夏目, 青木)
⑦筑波大　3.41.32
(原田, 髙橋, 前田, 勝)
⑧東京女子体育大　3.44.11
(濵野, 山崎, 小池, 西森)

●走高跳・5日
①矢野夏希（早稲田大４）　1.84
②前西咲良（筑波大３）　1.78
③江角菜子（福岡大２）　1.75
④森崎優希（日本女子体育大３）　1.75
⑤佐藤安里紗（四国大４）　1.70
⑥野田瑚羽（京都教育大２）　1.70
⑦和田桃李（日本女子体育大４）　1.70
⑧佐野奏歩（大東文化大２）　1.70

●棒高跳・7日
①村田蒼空（筑波大４）　4.20
②小林美月（日本体育大４）　4.15
③志賀日向子（東京女子体育大２）　3.80
④岡田莉歩（日本体育大３）　3.80
⑤坂田　優（園田学園大３）　3.70
⑥上山友美恵（日本女子体育大４）　3.70
⑦松井愛果（大阪教育大２）　3.70
⑧臼井明日香（東京女子体育大３）　3.50
〃上山貴美恵（筑波大１）　3.50
〃渡邊紗菜（日本女子体育大１）　3.50
〃高橋侑莉愛（順天堂大３）　3.50

●走幅跳・6日
①近藤いおん（日本大２）　6.28(+1.1)
②秋葉日愛（山形大４）　6.11(+2.7)
③馬場彩香（埼玉大Ｍ１）　6.08(+1.2)
④宮本里乃亜（日本体育大３）　6.06(+1.3)
⑤橋本詩音（筑波大２）　6.00(+1.0)
⑥中尾優花（福岡大Ｍ１）　5.95(+1.4)
⑦松村琴都（筑波大３）　5.93(+0.1)
⑧釣本陽香（横浜国立大３）　5.90(+2.9)

●三段跳・7日
①山﨑りりや（順天堂大２）　12.89(±0)
②菅野穂乃（日本体育大１）　12.58(−0.6)
③佐野瑚子（立命館大１）　12.48(+0.1)
④土屋美潤（日本体育大２）　12.47(+0.4)
⑤大前友乃（武庫川女子大４）　12.44(−0.1)
⑥佐田那奈（慶應義塾大３）　12.33(+0.5)
⑦廣瀬桃奈（園田学園大４）　12.29(−0.2)
⑧安井咲貴（大阪経済大３）　12.15(−0.2)

●砲丸投・5日
①坂ちはる（大阪体育大２）　15.59
②村瀬にこ（九州共立大４）　15.03
③近藤　湊（筑波大２）　14.63
④吉沢花菜（日本体育大４）　14.30
⑤世古櫻紗（国士舘大２）　14.27
⑥中原　鈴（大阪体育大４）　14.23
⑦辻　茉侑（東京女子体育大４）　14.22
⑧坂山　成（環太平洋大３）　14.03

●円盤投・7日
①世古櫻紗（国士舘大２）　47.46
②桑島弥々（九州共立大４）　46.57
③藤田はづき（四国大Ｍ２）　46.35
④益井莉桜（筑波大１）　45.42
⑤大熊紗弥（日本体育大４）　45.30
⑥友利晟弓（九州共立大４）　44.86
⑦阪本海月華（日本体育大４）　44.48
⑧由利　凛（福岡大２）　43.90

●ハンマー投・5日
①嶋本美海（九州共立大３）　62.20
②澤向美樹（九州共立大２）　59.58
③玉置歩加（流通経済大３）　58.77
④川島　空（大阪体育大４）　58.54
⑤工藤実幸乃（九州共立大２）　58.13
⑥三村啓恵（立命館大４）　58.10
⑦大東心春（環太平洋大１）　57.62
⑧中嶋日向子（中京大Ｍ２）　57.11

●やり投・6日
①辻萌々子（九州共立大Ｍ１）　53.91
②篠田佳奈（京都大Ｍ２）　51.88
③櫻井希美（中京大３）　51.76
④倉田紗優加（慶應義塾大４）　51.51
⑤谷山彩葉（東京女子体育大３）　49.59
⑥網本玲菜（九州共立大３）　48.76
⑦鈴木彩夏（大阪体育大１）　48.51
⑧入江遥菜（日本体育大４）　48.49

●七種競技・6～7日
①仮屋愛優（日本体育大２）　5361
②前西咲良（筑波大３）　5058
③貴家ありさ（日本体育大３）　5052
④下元香凜（東京学芸大３）　5048
⑤岡田菜摘（平成国際大４）　5007
⑥谷　青夏（中京大４）　4922
⑦中尾日香（筑波大４）　4899
⑧廣瀬杏奈（園田学園大４）　4784

対校得点

男　子

【総合得点】
1)順天堂大　107
2)筑波大　70.5
3)東洋大　67
4)早稲田大　53
5)中央大　44
6)日本大　43.85
7)東海大　40.7
8)法政大　30

【トラック】
1)順天堂大　77
2)東洋大　53
3)早稲田大　53
4)中央大　44
5)筑波大　32
6)法政大　24
7)関西大　19
8)創価大　17

【フィールド】
1)日本大　32.85
2)筑波大　31
3)東海大　30.7
4)順天堂大　28
5)九州共立大　26
6)日本体育大　23
7)東洋大　14
8)新潟医療福祉大　11.7

女　子

【総合得点】
1)筑波大　104.25
2)日本体育大　76
3)順天堂大　62.25
4)立命館大　53
5)福岡大　50
6)九州共立大　47
7)早稲田大　39
8)大東文化大　32

【トラック】
1)筑波大　63
2)順天堂大　54
3)立命館大　44
4)福岡大　40
5)青山学院大　31.5
6)早稲田大　31
7)大東文化大　31
8)園田学園大　22

【フィールド】
1)九州共立大　47
2)日本体育大　41
3)筑波大　32.25
4)大阪体育大　18
5)東京女子体育大　12.25
6)国士舘大　12
7)日本女子体育大　10.25
8)四国大　10

向上と進展会報177.indd 6　2026/10/20 13:32

天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会を終えて

競技会運営委員会より

競技会運営委員長　**羽田　雄一**

第95回日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）が、９月５日（土）から７日（月）までの３日間の日程で開催されました。

今大会の会場となった日産スタジアムでは、ここ数年、大規模な陸上競技大会が開催されていなかったことから、競技運営に必要な用器具の確認や、競技場内の各エリアの使用方法などについて、さまざまな不安や課題がありました。そのため、大会開催に向けて関係者との打ち合わせを重ね、できる限り事前に確認・調整を行いました。その結果、特に大会２日目は荒天だったにもかかわらず、競技日程の大きな遅れもなく、概ね円滑に競技を進行することができました。

また、暑熱対策についてもさまざまな準備を進めました。しかし、大会期間中は雨天となり、気温が大きく上昇することはなかったため、結果的に暑熱への対応が大きな課題となることはありませんでした。一方で、大雨への対応が必要となり、競技場内の安全確保や競技運営への影響など、想定していた暑さとは異なる気象条件への対応に追われる大会となりました。期間中、何度も対策会議を開き、対応を協議していきました。特に一部の投てき種目については、競技実施場所や用器具の関係から、実施が危ぶまれることもありましたが、関係者のご尽力により、すべての種目を最後まで実施することができました。選手をはじめとした大学関係者の皆さんには、競技場所や日程の変更、ウォーミングアップ場所の変更など、急な対応をお願いすることもありましたが、その都度ご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

今大会では会場特有の課題や荒天への対応など、さまざまな場面で判断と対応が求められましたが、関係者がそれぞれの立場で協力・対応することで、３日間の大会を無事に終えることができました。荒天の中を連日朝早くから夜遅くまで活動し、大会の運営を支えていただいた、神奈川陸協をはじめとした競技役員の皆さん、学生審判および補助員の皆さん、そして学生幹事の皆さんには、心より感謝申し上げます。皆さんのご理解とご協力があったからこそ、厳しい気象条件の中でも大会を最後まで実施することができました。本当にありがとうございました。今回の経験を今後の競技会運営に生かし、より安全で円滑な大会運営につなげていきたいと思います。

総務委員会より

総務委員長　**障子　恵**

第95回日本学生陸上競技対校選手権大会は、全国から学生アスリートが集う日本学生陸上競技界最高峰の大会として、日産スタジアムにおいて開催された。総務委員会では、安全かつ円滑な大会運営の実現を目指し、準備を進めてきた。

近年の猛暑を踏まえ、本大会では暑熱対策を重点課題の一つとして位置付けた。冷却機器の追加設置や休憩環境の整備に加え、学生審判員、学生補助員についても余裕を持った班編成を行うなど、参加者の安全確保に努めた。しかしながら、大会期間中には激しい降雨に見舞われる時間帯もあり、変化する気象状況への対応が求められた。競技場管理者や競技役員をはじめとする関係各所と連携しながら適切な判断を重ねた結果、全日程を無事に終了することができた。

観客サービスおよび情報発信の充実にも取り組んだ。来場者の利便性向上と販売業務の効率化を目的に、入場券およびプログラム販売にキャッシュレス決済を導入した。また、ライブ配信は、雨天開催ということもあり、視聴回数は約119万回に達した（前年度比133.2%）。さらに、学生幹事が中心となり、大会に向けたカウントダウン企画や優勝者インタビューなどのSNS発信にも取り組み、大会の魅力や選手の活躍を広く発信した。一方で、競技場でしか味わえない熱戦や応援も日本インカレの大きな魅力である。今後も配信やＳＮＳによる情報発信を充実させるとともに、より多くの方に競技場へ足を運んでいただけるように努めたい。

日本インカレは、「学生による学生のための大会」である。本大会でも、本連合および全国８地区学連の学生幹事が大会運営の中心を担い、関係各所との調整や各種計画の立案を行った。大会期間中は学生幹事、学生審判員、学生補助員をはじめ、多くの学生スタッフが競技会運営を支えた。また、メインスポンサーであるSMBCグループ様には、「SMBC賞」をご提供いただいたほか、大会運営ボランティアとしてもご協力いただくなど、多方面から大会を支えていただいた。

最後に、本大会の開催にあたりご支援・ご協力を賜りました競技役員の皆様、協賛各社の皆様、関係団体の皆様、そして全国の学生陸上関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今後も日本学生陸上競技界のさらなる発展に向け、より良い大会運営に努めてまいります。

向上と進展会報177.indd 7　2026/10/20 13:32

【会議報告】
第79回理事会

1．開催された日時

令和８年５月16日（土）15時

2．開催場所

日本学連事務所およびZOOMによるリモート会議併用

3．理事総数及び定足数

現在21名、定足数12名

4．出席理事数：16名

（出席理事）：秋元　惠美、有吉　正博、岡崎　朋美、小倉　幸雄、苅部　俊二、北井　敏雄、工藤　洋治、障子　　恵、大後　栄治、鶴崎　健一、永井　　純、長澤　光雄、日隈　広至、松本　正之、安井　年文、山下　　誠

（出席監事）：細萱　智大、山本　俊樹

（欠席理事）：蒲原　一之、黒須　雅弘、片平　誠人、広川　龍太郎、福島　洋樹

（オブザーバー）：羽田　雄一、有川　秀之

5．議　題

●決議事項

第１号議題　令和７年度事業報告および決算について

第２号議案　令和８年度・９年度次期理事、監事候補者について（追認分）

第３号議案　規程改定について（名誉会長、顧問および参与選任規程）

第４号議案　令和８年度～参与、顧問について

第５号議案　ナイメーヘン派遣代表選手選考について

第６号議案　日本学連普通会員登録者数について

第７号議案　18回定時社員総会の開催承認について（追認）

第８号議案　FISUワールドユニバーシティゲームズ（2027/韓国・忠清道）選考対象記録変更について

第９号議案　その他

・WRkカテゴリーアップ推薦について

・第96回日本インカレ開催場所の方向性について

●報告事項

①前回理事会以降の会務の報告について

②令和９年（2027年）主催競技会スケジュールについて

③富士山女子駅伝、出雲駅伝について

④通信制大学の地区学連への加盟について

⑤日本インカレの暑熱対策について

⑥その他

6．議事の経過およびその結果

（１）定足数の確認／議長および議事録署名人の選出

（２）議案の審議および議決結果等

《協議事項》

第１号議題　令和７年度事業報告および決算について（永井専務理事／大西事務局長）

資料に基づき令和７年度事業報告について説明があった。次に事業報告を受け、決算について関係資料の説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第２号議案　令和８年度・９年度理事、監事候補者について（追認分／永井専務務理事）

資料に基づき令和８年度・９年度次期理事、監事候補者（追認分）について説明があった。前回理事会で承認できていなかった、関東学連推薦の３名について追認いただきたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第３号議案　規程改定について

2014年に定めた規程より、「原則」という文言を追加するとともに、参与の任期を６年から10年に変更させていただきたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第４号議案　令和８年度～参与、顧問について

資料に基づいて令和８年度～参与、顧問について説明があった。

永井専務理事、日隈理事、山本監事が退任するにあたり、その見識を今後も生かしていただくため、永井専務理事には顧問に、日隈理事、山本監事には参与に就任いただきたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理

向上と進展会報177.indd 8　2026/10/20 13:32

事全員一致で可決した。

第５号議案　ナイメーヘン派遣代表選手選考について（大後理事）

男子・女子学生ハーフマラソン選手権および日本学生個人選手権と同時開催された日本インカレ10000ｍの成績を基に選考を行い、2026年度に３年生以下となる選手（留学生を除く）を対象として、男子４名・女子４名を11月開催予定のナイメーヘン15kmレースへ派遣する。

選考については、強化委員会において選考基準を設けた上で実施され、男子は学生ハーフマラソンより３名・日本インカレ10000ｍより１名、女子は学生ハーフマラソンより２名・日本インカレ10000ｍより２名を選出した。

なお、本派遣は国際大会代表派遣ではなく強化施策として実施するものであり、欠員が生じた場合の追加選考は行わない方針であること、また指導者や追加選手の同行についても調整を進めている。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第６号議案　日本学連普通会員登録者数について（永井専務理事）

普通会員登録者数は、現時点で19,054人の登録があり、２万人到達が目前である。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第７号議案　18回定時社員総会の開催承認について（追認/永井専務理事）

社員総会の開催方法について、前回理事会で承認された内容を再確認した。社員総会はオンライン併用形式で開催し、日本学連事務所を本拠地として、責任者が出席の上、会議システムを用いて令和８年６月20日14時から実施する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第８号議案　FISUワールドユニバーシティゲームズ（2027/韓国・忠清道）選考対象記録変更について（山下常務理事）

FISUワールドユニバーシティゲームズ（2027/韓国・忠清道）選考対象記録変更について説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第９号議案　その他（山下強化委員長/河野事務局次長）

①WRkカテゴリーアップ推薦について

資料に基づきWRkカテゴリーアップ推薦について説明があった。

競技力強化の観点から検討した結果、競技レベルや対象者数等を踏まえ、日本インカレ、関東インカレおよび西日本インカレの３大会についてランクアップを行いたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

②第96回日本インカレ開催場所の方向性について（永井専務理事）

第96回日本インカレ（2027年）開催場所の方向性について説明があった。

開催候補地として日産スタジアムを中心に検討を進めており、９月上旬から中旬の大学夏季休業期間中を基本とし、競技場側と日程調整を進めている。競技場使用料や審判・学生スタッフ確保、アクセス面、財政面等を総合的に考慮すると、関東圏での継続開催が現実的である。

また、地方開催については、競技場確保の面では利点がある一方、運営経費や人的負担の増加が課題である。特に日産スタジアムについては競技環境面での評価も高く、継続利用に向けて早期に折衝を進める必要がある。

協議の結果、日産スタジアム開催に向け、具体案がまとまり次第、改めて理事会に諮ることが承認された。

《報告事項》

１．前回理事会以降の会務の報告について（永井専務理事）

資料に基づき前回理事会以降の会務の報告について報告があった。なお、永井専務理事からの意向で各委員長に職務報告を求めた。

【障子理事】

総務委員会は、今年度より総務委員会と競技会運営委員会の二組織体制へ改編してから初の運営大会となった日本学生個人選手権に向けて、両委員会間で事前調整を実施し、大きな問題なく大会運営を行うことができた。今後は反省会を経て、日本インカレ等の準備を進めていく予定である。

【羽田委員長】

競技会運営委員会は、組織改編に伴い委員数を拡充し、新体制で個人選手権を実施したこと、運営上

向上と進展会報177.indd 9　2026/10/20 13:32

の課題を整理し、今後の大会運営改善につなげていく方針である。

【山下常務理事】

強化委員会は、選手選考業務を進めたことに加え、来年度開催予定のWUGに向けた選考要項作成等の準備を開始している。

2．令和9年（2027年）主催競技会スケジュールについて

資料に基づき令和9年（2027年）主催競技会スケジュールについて報告があった。

3．富士山女子駅伝、出雲駅伝について

富士山女子駅伝、出雲駅伝について報告があった。

富士山女子駅伝について、特別協賛を務めていたスズキ株式会社が撤退することとなり、現在、継続開催に向けた調整を行っている。

大会運営費の大部分をフジテレビによる放映権料が占めているが、同社を取り巻く経営状況等の影響もあり、現時点では開催決定には至っていない。一方で、共催の静岡県、富士市・富士宮市を含めた関係団体が開催継続に向けて協議を進めており、5月末頃を目途に方向性を決定したい意向である。また、開催にあたっては2千万円以上の経費削減が求められており、運営経費の見直し等を含め対応を進めていく。

出雲駅伝については、スタート時間を午前中へ変更する方向で出雲市およびフジテレビ等と調整を進めている。現時点で正式決定には至っていないものの、出雲市側でも午前スタートを前提とした準備を進めている状況であり、正式発表は5月29日を予定している。なお、駅伝に関する情報は注目度が高く、報道等による影響も大きいことから、情報管理には十分留意するよう求められている。

4．通信制大学の地区学連への加盟について（工藤常務理事）

資料に基づき通信制大学の地区学連への加盟について報告があった。

1年程度かけて意見交換を行いたい事項であり、今回は頭出しの趣旨で説明。また、地区学連に関係する内容であることから、欠席している地区学連関係者も多いため、今後インカレ時の理事会等でも継続して議題として取り上げていく予定である。現在、完全オンラインによる授業形態が認められており、スクーリング等を必要としない通信制大学が存在している。例えば、東京に本部を置く大学に在籍する学生が、北海道に居住しながら完全オンラインで履修している場合、その学生が学生陸上を行う際に、どこの地区学連に登録し、どの地区インカレ等へ出場できるのかが問題となっている。

日本学連定款第46条及び第47条では、地区学連は「当該地区内に所在する大学」を加盟校とすることができると規定している。また、加盟校において陸上競技を行う者を会員とすることができるとしており、大学の加盟と学生の会員登録の二層構造となっている。

関東学連では従来、関東地区に校舎が存在し、スクーリング等の通学実態があることを確認した上で加盟を認めていた。しかし、完全オンライン制の導入により、通学実態を必須条件とした場合、居住地によってはどこの地区学連にも加盟登録できない学生が生じる可能性があることから、関東学連内で議論を行っている。

その中で、まず学生が学生陸上へ参加する機会を確保する必要があること、また、今後さらにオンライン化・デジタル化が進展することを踏まえ、対応を検討している。

以下の三案を示す。

第一に、従来の運用を変更し、通学実態を求めない形とする案である。スクーリング等が存在しない完全オンラインの通信制学生については、居住地を問わず、大学本部所在地の地区学連へ登録することを認めるものであり、現行定款の範囲内で運用可能としている。

第二に、従来通りスクーリング等の通学実態がある場合には、その校舎所在地の地区学連への登録を認める案である。これは現在の運用を継続するものであり、放送大学関西のような事例を想定している。

第三に、新たな取り扱いとして、大学本部や通学校舎が存在しない地区であっても、学生の居住地に応じて地区学連へ加盟登録できるようにする案である。例えば、東京に本部を置く大学へ在籍しながら北海道に居住する学生が、北海道学連へ登録することを認める内容となっている。ただし、この案については現行定款では解釈が困難であるため、定款変更が必要となる。また、当該地区に部長や監督等の責任者を配置する必要性についても意見が出ている。

さらに、この第三案を認めた場合、同一大学の学生が全国各地の地区学連へ分散して登録することも可能となるため、大学加盟と学生登録を切り分ける

向上と進展会報177.indd 10　2026/10/20 13:32

必要性も含め、今後議論していく方向としている。

５．日本インカレの暑熱対策について

羽田委員長より、資料に基づき日本インカレの暑熱対策について報告があった。

現在、日本陸連において競技会運営時の暑熱対策について検討が進められており、WBGT31度以上の場合は競技を原則中断するという指針が示されている。

過去のデータとして、今年度大会期間中である９月５日から７日の日中においてWBGTが31度を超えていた事例も確認しており、日本インカレ開催時にも何らかの対応策を講じる必要がある。具体的には、競技日程の調整や実施時間帯の見直しなどを含めた検討を進めている。また、競技終了時刻が遅くなる場合には、選手や関係者の移動・帰宅への影響もあることから、日程や競技時間については早めに決定する必要がある。特に神奈川県内でも居住地によって通いづらいケースがあるため、競技運営上の配慮も含めて検討を進めている。

今後は、関東学連の委員会をはじめ、競技会運営委員会、総務委員会等と連携しながら、日本インカレの日程および暑熱対策について協議していく。

【安井理事】

インターハイ等では、暑熱対策として開催日数を増やし、競技時間を夕方以降へ移行する対応が進められている。一方、日本インカレは３日間開催で競技日程が非常に過密となっており、現場としては選手負担が大きい状況である。開催場所確保の難しさは理解しているが、社会的状況や暑熱環境を踏まえ、大会開催日数の見直しも含めて検討材料としてほしい。

【障子理事】

若いアスリートたちの健康を第一に考えることが前提ではあるが、審判員や役員の健康管理も非常に重要であると思う。対策については引き続き総務委員会と競技運営委員会とで連携して検討していきたい。

【会議報告】
18回定時社員総会

１．開催された日時

令和７年６月20日（土）14時00分～15時35分

２．開催された場所

日本学連事務所およびZOOMによるオンライン併用

３．正会員総数及び定数

現在数135名、定足数68名

４．出席正会員数

121名　（本人出席）46名　（委任出席）75名

５．理事・監事出席者

（出席理事）秋元　惠美、有吉　正博、岡崎　朋美、小倉　幸雄、片平　誠人、蒲原　一之、苅部　俊二、北井　敏雄、工藤　洋治、黒須　雅弘、障子　　恵、大後　栄治、鶴崎　健一、永井　　純、日隈　広至、松本　正之、安井　年文、以上17名

（出席監事）細萱　智大、山本　俊樹

（欠席理事）長澤　光雄、広川龍太郎、福島　洋樹、山下　　誠

６．議　題

【決議事項】

第１号議案：令和７年度（第14期）決算承認の件

第２号議案：理事の任期満了に伴う改選に関する件

第３号議案：監事の任期満了に伴う改選に関する件

【報告事項】

①令和７年度事業報告

②令和７年度日本学生陸上競技連合の会務について

③その他

７．議事の経過及びその結果

（１）定足数の確認／議長および議事録署名人の選出

（２）議案の審議状況及び議決結果等

【報告事項】

①令和７年度事業報告について（永井純専務理事）

競技会事業について、日本学連はトラック＆フィールド競技会３大会および男女駅伝競走大会を主催しており、ロードレースについては既存大会との共催形

向上と進展会報177.indd　11　2026/10/20　13:32

式で実施していることが報告された。日本学生陸上競技個人選手権大会については、ＷＵＧの最終選考会を兼ねて実施し、ランキングやポイント制度を活用した選考方法を採用することで、公平性及び透明性を確保した選手選考を行った。

日本インカレについては、東京世界陸上開催の影響により例年の開催時期での実施が困難となったことから、交通利便性や競技運営体制等を考慮した結果、岡山県において開催したことが報告された。開催時期も調整のうえ６月上旬とし、多くの好記録が生まれる大会となった。

秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会については、期日の選択肢があまりないことから８月９日開催となり、暑熱対策を十分行った上での開催となった。

駅伝事業について、近年は熱中症発生への対応が大きな課題となっており、出雲駅伝については関係各所との調整の結果、翌年度大会からスタート時刻を13時10分から午前スタートとする検討に入った。また、全日本大学女子駅伝ではクマ出没への対策を講じたほか、全日本大学駅伝ではＧＰＳ機能付きたすきを新たに導入した。

ロードレース事業については、日本学生ハーフマラソン選手権大会を従来の立川開催から香川丸亀国際ハーフマラソンとの共催へ変更したことにより、好記録が多数生まれた。また、競歩競技については世界陸連の方針に基づきハーフマラソンの距離へ変更して行った。

公２の育成事業については、ドイツで開催されたＷＵＧへ選手団を派遣し、金メダル１個、銀メダル５個、銅メダル３個、入賞14という優秀な成績を収めた。また、栄章の中の新記録章において、令和７年は日本学生新記録が多数樹立され、奨励金支給件数が増加した。さらに、Ｂ級審判員資格認定事業及びアンチ・ドーピング教育事業についても継続して実施した。

公３の調査研究事業については、日本陸上競技学会との共催事業を実施したほか、『陸上競技研究』を年３回発行し、第140号を迎えた。

法人管理部門については、理事会を６回開催したほか、各委員会等、多くの会議を実施、会員登録、公認競技会申請業務、年３回の会報誌発行、ホームページ運営及び学生幹部役員研修等を実施したことが説明された。また、普通会員登録者数が２万人を超え、コロナ禍以前の水準に回復したことの報告があった。

【決議事項】

第１号議案：令和７年度（第14期）決算承認の件（大西清司事務局長）

最初に貸借対照表、続いて損益計算書として正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財産目録、付属明細書等の説明がなされた。

続いて細萱智大監事より監査報告が行われた。計算書類、附属明細書及び財産目録はいずれも適正に作成されており、法令及び定款に違反する事項は認められなかったこと、また事業報告についても不当な事実は認められなかったことが報告された。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

第２号議案：理事の任期満了に伴う改選に関する件（永井純専務理事）

理事は学識経験者等推薦11名、地区学連推薦11名で構成されることが説明され、それぞれの候補者について経歴及び推薦理由の説明が行われた。各候補者について個別に賛否の投票を実施した結果、有川秀之、有吉正博、岡崎朋美、蒲原一之、工藤洋治、障子恵、大後栄治、羽田雄一、松本正之、安井年文、山下誠、広川龍太郎、長澤光雄、秋本惠美、苅部俊二、辻範夫、福島洋樹、黒須雅弘、小倉幸雄、北井敏雄、鶴崎健一、及び片平誠人の各氏が出席正会員全員の賛成で承認された。

第３号議案：監事の任期満了に伴う改選に関する件

同様に監査候補について各候補者について個別に賛否の投票を実施した結果、細萱智大、山根徹各氏も出席正会員全員賛成で承認された。

【報告事項】

②令和７年度日本学生陸上競技連合の会務について

各委員会委員長より、委員会の会務報告が行われた。

（永井専務理事）企画委員会は、本連合の理事会運営に関する基本事項の検討及び調整を担う委員会であり、業務執行理事によって構成されている。委員長は専務理事が務めており、理事会への議案上程、役員人事案の策定及び上程、本連合が実施する各種事業の統括などを主な業務としている。また、本連合が実施する競技会事業、育成事業、調査研究事業等について、各専門委員会との連携を図りながら事業全体を統括する役割を担っている。また、日本学連が次期100周年を迎えるにあたり、今後の組織運営のあり方についても検討を進めている。

向上と進展会報177.indd 12　2026/10/20 13:32

（障子理事）総務委員会は、事務局職員と連携しながら本連合の事業運営に関する庶務業務全般を支援するとともに、学生役員の指導及び育成を行うことを主な目的として活動している。委員会規程に基づき、会員登録業務、各種会議の準備及び運営支援、学生役員への指導、男女共同参画に関する取り組み、ファンドレイジング活動の支援、広報及びマーケティングに関する支援等を担当している。また、近年課題となっている競技会におけるハラスメントや盗撮行為への対策に取り組み、安全で安心な競技環境整備に努めたことが報告された。さらに令和８年度より組織改編を行い、競技会運営体制の強化を図るため一部委員を競技会運営委員会へ配置した。

（安井理事）強化委員会では、強化委員会では、ワールドユニバーシティゲームズ（ＷＵＧ）への選手派遣を中心とした強化事業を実施した。ドイツで開催された同大会では、日本学生代表選手団が金メダル１個、銀メダル５個、銅メダル３個、入賞14という優秀な成績を収めた。

大会派遣にあたっては国際情勢や予算面等に起因する課題も存在したが、関係機関との調整により派遣人数を維持し、全選手の派遣を実現した。また次回大会に向けた派遣標準記録及び選考基準の策定を進め、既に日本学連ホームページに公表している。

さらに、駅伝大会については近年の暑熱対策や女子駅伝におけるクマ対策など、競技環境の安全確保に向けた対応を継続している。

（羽田委員長）競技会運営委員会では、本連合が主催及び併催する競技会の準備及び運営を担当した。トラック＆フィールド競技会３大会、駅伝競走大会４大会及びロードレース大会３大会について、事前準備から大会当日の運営支援までを行った。

特に日本インカレについては岡山県での開催となったことから、競技委員および学生幹事を複数回現地へ派遣し、会場担当者との綿密な打合せを行うことで円滑な大会運営に努めた。

また駅伝大会及びロードレース大会についても実行委員会段階から参画し、競技運営上の課題解決及び安全管理体制の整備を行った。

令和８年度からは組織改編に伴い競技会運営委員会へ名称変更し、委員体制を強化したうえで更なる競技会運営の充実を図る予定である。

（蒲原理事）医事委員会では、「アンチ・ドーピング教育・啓発活動」と「競技会救護活動」を二本柱として事業を実施した。

アンチ・ドーピング教育については、日本学生個人選手権大会及び日本インカレにおいてアウトリーチプログラムを実施し、競技者に対する啓発活動を行った。またスポーツファーマシストを講師としたオンライン研修会を開催したほか、「知っておきたいアンチ・ドーピングの知識」を改訂し、日本学連ホームページ上で公開した。

救護活動については、個人選手権及び日本インカレにおいて学生トレーナーと連携した医療救護体制を構築した。また全日本大学駅伝、全日本大学女子駅伝及び富士山女子駅伝においても救護活動を実施した。日本インカレでは４日間で計37名の受診者があり、その内訳は競技者32名、観客等５名であったが、重症者及び救急搬送事例は発生しなかった。

（安井理事）調査研究委員会では学術誌『陸上競技研究』の編集及び発行を行った。令和７年度は第138号から第140号までの計３号を発行し、原著論文２編、実践研究２編、研究資料３編、事例報告２編、国際競技会報告等４編を掲載した。掲載論文については編集委員会による査読を実施し、学術的水準の維持向上に努めた。また令和８年６月には第141号を発行予定であり、『陸上競技研究』は140号を超える長い歴史を持つ学術誌として今後も継続して発行していく。

（永井専務理事）財務委員会、国際委員会、指導者会議運営委員会、倫理委員会及び不服申立委員会についても継続して活動を実施している。財務委員会は予算及び決算に関する支援を担当し、国際委員会は出雲駅伝におけるアイビーリーグ対応等の国際交流事業を担当した。また指導者会議運営委員会は指導者の資質向上に関する検討及び会議運営を行い、倫理委員会は倫理規程違反行為の防止及び対応を担当した。不服申立委員会については、倫理委員会等の裁定に対する不服申立てへの対応を行う体制を整備している。

④その他

松本会長より、任期満了に伴い退任する永井純理事、日隈広至理事及び山本俊樹監事に対する謝辞が述べられた。

向上と進展会報177.indd 13　2026/10/20 13:32

資料　2025年度（令和７年度）事業報告

(1) 公1＜競技会＞

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会	2025年 4月25日（金） ~4月27日（日）	レモンガス スタジアム平塚 ※ハンマー投げのみ 東海大学湘南校舎競技場（平塚市）	男子18 女子18	81校/548名（男子） 80校/539名（女子）	大会新(17) 大会タイ(1) ※スポーツ振興基金助成金事業
2	天皇賜盃 第94回 日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 6月5日（木） ~6月8日（日）	JFE晴れの国 スタジアム （岡山市）	男子22 女子22	114校/997名 105校/839名	男子総合優勝校…順天堂大学(78点) 女子総合優勝校…日本体育大学(71点) 男子総合優勝：天皇賜盃 女子総合優勝：秩父宮妃杯 日本学生新(5)　大会新(14)　大会タイ(1) ※スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成金事業
3	秩父宮賜杯 第65回 実業団・学生対抗陸上競技大会 2025オールスターナイト陸上 （日本GPシリーズ平塚大会）	2025年 8月9日（土）	レモンガス スタジアム平塚 （平塚市）	男子9 女子9	54名（男子） 54名（女子） ※OP参加含まず	実業団217点　男子111点　女子106点 学生165点　男子79点　女子86点 総合優勝チーム：秩父宮賜杯・内閣総理大臣杯 男子優勝チーム：文部科学大臣杯 女子優勝チーム：厚生労働大臣杯
4	第37回 出雲全日本大学選抜駅伝競走	2025年 10月13日 （月/祝）	出雲市45.1km 6区間		国内20ﾁｰﾑ+OP1ﾁｰﾑ （中国四国選抜） 海外1ﾁｰﾑ（IVY）	優勝…國學院大2時間09分12秒(2年連続3回目) 準優勝…早稲田大2時間09分50秒 優勝チーム：内閣総理大臣杯・文部科学大臣賞
5	第43回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2025年 10月26日（日）	仙台市38.0km 6区間		国内25校+1ﾁｰﾑ （東北選抜）	優勝…城西大2時間03分28秒(25年ぶり3回目)準 優勝…大東文化大2時間03分44秒 優勝チーム：文部科学大臣杯
6	秩父宮賜杯 第57回 全日本大学駅伝対校選手権大会	2025年 11月2日 （日/祝）	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内25校+2ﾁｰﾑ （東海選抜/全日本大学選抜）	優勝…駒澤大5時間6分53秒(2年ぶり17回目) 2位…中央大5時間8分54秒 優勝チーム：秩父宮賜杯
7	2025全日本大学女子選抜駅伝競走	2025年 12月30日（火）	富士宮市～富士市 43.4km 7区間		国内22ﾁｰﾑ+2ﾁｰﾑ （全日本大学選抜/静岡県選抜）	優勝…城西大2時間22分36秒(初優勝) 準優勝…東北福祉大2時間22分47秒 優勝チーム：文部科学大臣杯
8	第29回 日本学生ハーフマラソン選手権大会 ※香川丸亀国際ハーフマラソン大会と併催	2026年 2月1日（日）	丸亀市		ｴﾝﾄﾘｰ300名 完走198名	優勝　…佐藤大介(中央大)1時間00分40秒 準優勝…山本悠(順天堂大)1時間00分46秒3位 …大濱逞真(大東文化大)1時間00分48秒
9	第20回日本学生競歩選手権大会 ※全日本能美競歩大会と併催	2026年 3月15日（日）	能美市		（男子）ｴﾝﾄﾘｰ42名 （女子）ｴﾝﾄﾘｰ27名	男子優勝…原圭佑(京都大)1時間21分55秒 女子優勝…谷純花(金沢学院大)1時間41分25秒
10	第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 ※まつえレディースハーフマラソン大会と併催	2026年 3月15日（日）	松江市		ｴﾝﾄﾘｰ58名 完走37名	優勝…山田祐実(大阪学院大)1時間11分26秒 準優勝…蔦野萌々香(大東文化大)1時間11分59秒 3位…弓木咲來(立命館大)1.12.03

(2) 公２＜育成＞

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)	2025年 7月21日（水） ~7月27日（月）	ライン・ルール地方 （ドイツ）	選手47名(男子28名・女子19名)　役員17名 ※うちATO2名金メダル5、銀メダル3、銅メダル3、入賞14
2	第47回 北日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 9月5日（金） ~7日（日）	札幌市円山競技場	日本学連共催
3	秩父宮賜杯 第78回 西日本学生陸上競技対校選手権大会	2025年 9月12日（金） ~14日（日）	たけびし スタジアム京都	日本学連共催
4	日本学連栄章贈与式/諸記録章 （日本学生新記録）	2026年 3月7日（土）	TKPカンファレンス センター （新宿）	【日本新記録/日本学生新記録章】 ①篠原倖太郎(駒澤大)ハーフマラソン【日本学生新記録章】 ＜男子＞①落合晃(駒澤大)800m ②リチャード・エティーリ(東京国際大)ハーフマラソン ③黒田朝日(青山学院大)マラソン ④山﨑琉惟・平川慧・白畑健太郎・廿浦亮仁(東洋大)4×400mR ＜女子＞①青木アリエ(日本体育大)400m ②田島愛理(順天堂大)1500m ③本田怜(順天堂大)100mH ④柴藤凜・前田美結子・大林璃音・山形愛羽(福岡大)4×100mR ⑤小林美月(日本体育大)棒高跳 ⑥村上来花(九州共立大)ハンマー投
5	第109回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走(日本学連共催)	2026年 2月21日（土）	海の中道海浜公園 （福岡市）	男子(選手権4位)…野中恒亨(國學院大)29分26秒 女子(選手権3位)…村山愛美沙(東北福祉大)34分05秒
6	第6回 全国大学対校男女混合駅伝競走大会	2026年 2月15日（日）	ヤンマースタジアム 長居/長居公園 （大阪市）	優勝…城西大58分30秒 準優勝…大東文化大59分43秒 国内21校+1チーム(関西選抜)日本学連共催

向上と進展会報177.indd　14　2026/10/20　13:32

7	RUN as ONE 東京マラソン2026 準エリート (学生)	2026 年 3 月 1 日 (日)	東京	東京マラソン財団へ推薦、準エリート及びエリート
8	第 71 回指導者会議	2026 年 3 月 7 日 (土)	TKP カンファレンス センター / オンライ ン併催 (新宿)	テーマ「指導者会議のこれまでとこれから」
10	新規 B 級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
11	ドーピング・コントロール・テスト	3回	各地	検査実施大会 (日本学生個人、日本 IC、全日本大学女子駅伝)
12	知っておきたいアンチドーピングの 知識 2026 発行	2026 年 1 月 1 日発行	日本学連 ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

(3) 公 3 ＜調査研究＞

No.	事業	期日 · 回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催 (第 24 回)	2025 年 11 月 15 日 (土) ~16 日 (日)	筑波大学	日本学連共催テーマ「陸上競技学における実践知の実効化に向けて」
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年 3 回 138 号~ 140 号		(ISSN 0919-9918) 日本学連調査研究委員会 2025/6/30、10/31　2026/2/28 発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業
3	2025 年日本学生記録年鑑の発行	2026 年 3 月 30 日発行		1000 部発行　主催競技会の記録、2025 年 50 傑、歴代 10 傑他

(4) 法人管理部門＜組織力管理＞

No.	事業	期間 · 回数等	摘要
1	理事会の開催	6回	第72回 (４月18日)　第73回 (４月28日)　第74回 (６月５日) 第75回 (９月27日) 第76回 (12月13日)　第77回 (３月７日)
2	定時社員総会の開催	1回	第17回定時社員総会 (６月21日)/ Ｒ６年度事業報告、定款の改定
3	企画委員会の開催	4回	定時理事会の設営 (議題の検討)、執行業務の企画、立案
4	会員の入会受付	2025年度	正会員 135名普通会員 (学生)　20 , 786名　賛助会員の募集活動
5	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2025年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付 / 日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付 / 日本陸連申請　ＷＲｋ競技会開催受付 / 申請
6	会報の刊行	3回	各回　1 , 000部 (名誉会員、正会員、役員、委員会委員、賛助会員地区学連加盟校に配布) ５月、10月、１月
7	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
8	2025学生役員会議	2025年 12月13日 (土)	１回開催 (新宿)　参加対象：各地区学連幹部学生役員
9	第51回学生幹部役員研修会	2026年 3月6日 (金) ~ 7日 (土)	集合研修　参加対象：令和７年度各地区学連三役
10	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載 (各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆)

向上と進展会報177.indd　15　2026/10/20　13:32

資料

貸借対照表　令和８年３月31日現在　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 資産の部			
１．流動資産			
現金預金	75,237,969	59,789,801	15,448,168
未収金	2,895,887	2,894,476	1,411
仮払金	24,953,859	23,029,441	1,924,418
流動資産合計	103,087,715	85,713,718	17,373,997
２．固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	25,000,000	25,000,000	0
秩父宮妃記念基金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	35,000,000	35,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	4,186,000	8,800,000	△ 4,614,000
賞与引当資産	1,412,000	1,450,000	△ 38,000
ＷＵＧ派遣事業積立資産	5,000,000	10,000,000	△ 5,000,000
国際交流積立資産	8,000,000	8,000,000	0
競技会事業積立資産	32,000,000	32,000,000	0
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000
海外ロードレース遠征積立資産	2,000,000	2,000,000	0
創立100周年積立資産	4,500,000	4,000,000	500,000
競技者育成奨励事業積立資産	4,000,000	0	4,000,000
特定資産合計	63,098,000	70,250,000	△7,152,000
(3) その他固定資産			
電話加入権	56,000	56,000	0
その他固定資産合計	56,000	56,000	0
固定資産合計	98,154,000	105,306,000	△ 7,152,000
資産合計	201,241,715	191,019,718	10,221,997
Ⅱ 負債の部			
１．流動負債			
未払金	3,574,007	772,789	2,801,218
預り金	15,099,132	4,231,684	10,867,448
賞与引当金	1,412,000	1,450,000	△ 38,000
流動負債合計	20,085,139	6,454,473	13,630,666
２．固定負債			
退職給付引当金	4,186,000	8,800,000	△ 4,614,000
固定負債合計	4,186,000	8,800,000	△ 4,614,000
負債合計	24,271,139	15,254,473	9,016,666
Ⅲ 正味財産の部			
１．指定正味財産			
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
（うち基本財産への充当額）	10,000,000	10,000,000	0
２．一般正味財産	166,970,576	165,765,245	1,205,331
（うち基本財産への充当額）	25,000,000	25,000,000	0
（うち特定資産への充当額）	58,912,000	61,450,000	△ 2,538,000
正味財産合計	176,970,576	175,765,245	1,205,331
負債及び正味財産合計	201,241,715	191,019,718	10,221,997

向上と進展会報177.indd 16　2026/10/20 13:32

資料

正味財産増減計算書

令和７年４月１日から令和８年３月31日まで　　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	96,250	0	96,250
基本財産受取利息	96,250	0	96,250
特定資産運用益	252,450	88,022	164,428
特定資産受取利息	252,450	88,022	164,428
受取会費	40,066,200	38,388,800	1,677,400
正会員受取会費	675,000	675,000	0
普通会員受取会費	37,465,200	35,821,800	1,643,400
賛助会員受取会費	1,290,000	1,220,000	70,000
陸上研究誌受取会費	636,000	672,000	△ 36,000
事業収益	80,127,977	77,694,957	2,433,020
受取協賛金	37,466,977	32,763,957	4,703,020
受取放映料	17,600,000	17,600,000	0
受取参加料	9,764,500	9,621,000	143,500
受取広告料	2,656,000	2,574,000	82,000
入場料等売上	12,640,500	15,136,000	△ 2,495,500
受取補助金等	8,137,000	5,613,000	2,524,000
受取助成金	8,087,000	5,563,000	2,524,000
受取補助金	50,000	50,000	0
受取負担金	11,019,892	12,720,844	△ 1,700,952
受取負担金	11,019,892	12,720,844	△ 1,700,952
受取寄付金	2,300,000	0	2,300,000
受取寄付金	2,300,000	0	2,300,000
雑収益	205,694	77,242	128,452
受取利息	129,670	37,805	91,865
雑収益	76,024	39,437	36,587
経常収益計	142,205,463	134,582,865	7,622,598
(2) 経常費用			
事業費	138,118,742	123,277,333	14,841,409
給料手当	11,627,443	10,192,427	1,435,016
臨時雇賃金	266,400	655,200	△ 388,800
退職給付費用	4,651,200	640,000	4,011,200
賞与引当金繰入額	1,129,600	1,160,000	△ 30,400
福利厚生費	2,019,129	1,919,132	99,997
会議費	4,430,037	3,475,605	954,432
旅費交通費	44,862,513	40,911,546	3,950,967
通信運搬費	3,162,444	2,455,673	706,771
消耗品費	4,676,213	2,631,789	2,044,424
備品費	54,666	193,961	△ 139,295
印刷製本費	9,441,303	8,898,406	542,897
光熱水料費	105,764	118,364	△ 12,600
食糧費	3,614,849	3,660,380	△ 45,531
賃借料	8,810,498	10,666,142	△ 1,855,644
リース料	311,960	299,904	12,056

科　目	当年度	前年度	増　減
諸謝金	2,308,034	828,000	1,480,034
表彰費	1,693,245	1,507,181	186,064
渉外費	55,690	50,595	5,095
委託費	9,834,435	13,604,765	△ 3,770,330
租税公課	2,495,920	1,563,824	932,096
支払負担金	21,185,510	17,065,740	4,119,770
雑費	1,381,889	778,699	603,190
管理費	8,095,390	6,636,121	1,459,269
給料手当	2,906,860	2,548,106	358,754
臨時雇賃金	66,600	163,800	△ 97,200
退職給付費用	1,162,800	160,000	1,002,800
賞与引当金繰入額	282,400	290,000	△ 7,600
福利厚生費	504,781	479,782	24,999
会議費	283,198	296,736	△ 13,538
旅費交通費	199,383	231,532	△ 32,149
通信運搬費	596,054	580,468	15,586
消耗品費	11,713	8,400	3,313
備品費	33,504	118,879	△ 85,375
印刷製本費	283,560	252,990	30,570
光熱水料費	105,766	118,366	△ 12,600
賃借料	823,654	735,556	88,098
リース料	77,990	74,976	3,014
渉外費	35,555	33,921	1,634
委託費	50,765	87,779	△ 37,014
租税公課	623,980	390,956	233,024
雑費	46,827	63,874	△ 17,047
経常費用計	146,214,132	129,913,454	16,300,678
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,008,669	4,669,411	△ 8,678,080
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,008,669	4,669,411	△ 8,678,080
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
諸引当金取崩益	5,214,000	0	5,214,000
退職給付引当金取崩益	5,214,000	0	5,214,000
経常外収益計	5,214,000	0	5,214,000
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	5,214,000	0	5,214,000
当期一般正味財産増減額	1,205,331	4,669,411	△ 3,464,080
一般正味財産期首残高	165,765,245	161,095,834	4,669,411
一般正味財産期末残高	166,970,576	165,765,245	1,205,331
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
Ⅲ 正味財産期末残高	176,970,576	175,765,245	1,205,331

向上と進展会報177.indd　17　　2026/10/20　13:32

【会議報告】
第80回理事会

1．開催された日時

令和８年６月20日（土）15時45分～17時15分

2．開催場所

日本学連事務所およびZOOMによるリモート会議併用

3．理事総数及び定足数

現在21名、定足数12名

4．出席理事数：19名

（出席理事）秋元　惠美、有川　秀之、有吉　正博、岡崎　朋美、小倉　幸雄、片平　誠人、蒲原　一之、苅部　俊二、北井　敏雄、工藤　洋治、黒須　雅弘、障子　　恵、大後　栄治、辻　　範夫、鶴崎　健一、羽田　雄一、広川龍太郎、松本　正之、安井　年文

（出席監事）細萱　智大、山根　徹

（欠席理事）長澤　光雄、福島　洋樹、山下　誠

（オブザーバー）船原　勝英、梁瀬　峰史

5．議　題

●決議事項

第１号議題　代表理事・業務執行理事の選任及び会長、副会長、専務理事、常務理事の選任について

第２号議案　倫理委員会からの提案について

第３号議案　規程改定について

◆記録承認種目に関する規程

第４号議案　冬季ユニバーシティゲームズ（2027/長春）クロスカントリーランニングについて

第５号議案　調査研究委員会委員について

第６号議案　正会員の入会・退会について

第７号議案　日本学連常任幹事について

第８号議案　その他

●報告事項

①出雲駅伝、富士山女子駅伝について

②令和８年度主催競技会理事派遣計画について

③その他

6．議事の経過およびその結果

（１）定足数の確認／第１号議題　代表理事・業務執行理事の選任及び会長、副会長、専務理事、常務理事の選任について

代表理事、会長について、松本正之氏を推薦、審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

次に副会長、専務理事、常務理事の選任（業務執行理事の選任）について以下の通りメンバーが推挙、提案された。

代表理事・副会長に　有吉正博氏、副会長に障子　恵氏、専務理事に大後栄治氏、常務理事に山下誠氏、工藤洋治氏、羽田雄一氏　以上３氏

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

（２）議長および議事録署名人の選出

（３）議案の審議および議決結果等

第２号議案　倫理委員会からの提案について

工藤常務理事および梁瀬峰史関東学生陸上競技連盟倫理委員長より、資料に基づき倫理委員会からの提案について説明があった。

筑波大学陸上競技部における競技会運営上の不適正事案について、過去の処分事例を踏まえ、適正な手続きを行うために処分規定を整備しており、これまでにも複数大学に対して競技会主催禁止等の処分を実施している。

今回の事案については、筑波大学陸上競技部が、第三種公認陸上競技場である筑波大学陸上競技場に隣接する非公認の投てき練習場においてハンマー投げ競技を実施し、その記録を公認競技場で実施した記録として申請・報告していたことが確認された。対象期間は1988年から2017年までの間であり、関東学連倫理委員会において不適正行為として認定された。本件は筑波大学からの自主申告により発覚したものであり、関係者へのヒアリング等を通じて事実確認が行われた。投てき練習場は基本的に非公認施設であり、一部期間を除き、公認条件を満たしていない状況であった。

過去の類似事案（流通経済大学、順天堂大学、国際武道大学）との比較を踏まえ、筑波大学についても同様の競技会主催禁止期間や関係指導者についても処分を行う案が示された。

【船原倫理委員長】

向上と進展会報177.indd 18　2026/10/20 13:32

過去の類似事案との比較を踏まえ、日本学連として、関東学連の処分内容を是とする。筑波大学が2017年以降は適正な条件で競技会を実施していた点は考慮しつつも、記録競技である陸上競技において公認条件の確認が十分でなかった点は重く見るべきである。

【松本議長】

関東学連に対して不服申し立てが行われた場合、日本学連として本日の決定内容はどのように扱われるのか。

【工藤常務理事】

不服申し立ての対象や内容によって対応は異なるが、日本学連理事会としては不服申し立ての有無に関わらず、本日の検討結果として結論を出す。また、今回の決定は関東学連と同一内容であるものの、日本学連として独自に検討した結果であることが確認されたとする。関東学連の決定に対する不服申し立てがあった場合についても、日本学連の不服申し立て委員会が審査を行い、関東学連での不服申し立ての結果が日本学連の決定の前提条件となるものではない。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第３号議案　規程改定について（大後専務理事）

2026年度日本インカレより、これまで男女ともに10000ｍ競歩として実施していた種目が、5000ｍ競歩へ変更されることに伴い、男女5000ｍ競歩を記録承認種目へ追加するものである。また、競歩種目において、ハーフマラソン競歩およびマラソン競歩が新たに対象となったことから、これらについても記録承認種目として取り扱うことが提案された。

【補足説明/河野事務局次長】

ハーフマラソン競歩およびマラソン競歩については、2026年３月時点で既に選手権大会において実施されているため、本理事会での決議後、2026年１月１日付で記録として認める取り扱いとする。

また、新記録章の対象種目については、現在の日本記録・日本学生記録の対象範囲（ワールドユニバーシティゲームズ種目、オリンピック種目、10000ｍ競歩）を継続する方針であることが確認された。

さらに、女子5000m競歩については、過去に記録承認対象ではなかった時期に残された最高記録を暫定学生記録として扱い、男子5000ｍ競歩については、2026年４月に記録された現在の日本記録を暫定学生記録として扱うこととした。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第４号議案　冬季ユニバーシティゲームズ（2027/長春）クロスカントリーランニングについて（大後専務理事）

これまで、FISUが開催する世界大学クロスカントリー選手権として本連合から選手派遣を行っていたが、今後は冬季ユニバーシティゲームズのオプション競技として開催される形に変更となる。

2026年大会については、イタリア・カッシーノにて開催され、本連合から既に派遣を実施している。今後は冬季ユニバーシアードの大会種目として、男子・女子個人ショートレース、男子・女子個人ロングレース、混合リレーが実施される予定である。
また、JOCより派遣に関するアンケートへの回答依頼があり、本連合としては、各種目において出場可能な最大人数でのエントリー希望を提出している。

この際、以下のように補足があった。

【補足説明/大西事務局長】

今後、日本陸連およびJOCとの調整を経て、最終的な派遣人数等が決定される予定であり、本議案では冬季ユニバーシアードへの派遣方針について承認を求めるものである。また、選考方法については現在強化委員会等で検討中であり、詳細については今後検討していく予定である。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第５号議案　調査研究委員会委員について（安井理事）

青山亜紀先生より、大学院専攻主任就任に伴い業務との両立が困難となったため退任の申し出があった。後任として、研究活動や陸上競技指導等の実績から適任であることから、同志社大学スポーツ健康科学部の新井彩先生を推薦したい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第６号議案　正会員の入会・退会について（大後専務理事）

資料に基づき正会員の入会・退会について説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第７号議案　日本学連常任幹事について（桑原幹事

向上と進展会報177.indd 19　2026/10/20 13:32

長）

資料に基づき新任の日本学連常任幹事の紹介、提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第８号議案　　その他

議長より、協議事項の確認があったが、特段の案件はなく、決議事項を終了した。

《報告事項》

①出雲駅伝、富士山女子駅伝について（大西事務局長）

出雲駅伝について、熱中症対策等の観点からスタート時間の変更が行われ、2026年度大会は10月12日９時10分スタートとなる。これに伴い、表彰式は11時45分開始予定となり、その他付帯行事については今後調整を進める予定である。

富士山女子駅伝については、フジテレビおよび関係機関との調整を進めており、開催が決定した。特別協賛として前田道路株式会社が決定したことも共有され、今後は大会運営に係る予算面の課題について協議を進めながら準備を行う方針である。

②令和８年度主催協議会理事派遣計画について

障子理事より、資料に基づき令和８年度主催競技会理事派遣計画について報告があった。

③その他

議長よりその他事項について確認があったが、特段の報告事項・意見等はなく、報告事項を終了した。

【会議報告】
第81回理事会

１．開催された日時

令和８年９月４日（金）14時00分～16時25分

２．開催場

日産スタジアム（横浜国際総合競技場）２階221室

３．理事総数及び定足数

現在21名、定足数12名

４．出席理事数：20名

（出席理事）秋元　惠美、有川　秀之、有吉　正博、岡崎　朋美、小倉　幸雄、片平　誠人、蒲原　一之、苅部　俊二、北井　敏雄、工藤　洋治、障子　恵、大後　栄治、鶴崎　健一、長澤　光雄、羽田　雄一、広川龍太郎、福島　洋樹、松本　正之、安井　年文、山下　誠

（出席監事）細萱　智大、山根　徹

（欠席理事）黒須　雅弘、辻　範夫

（オブザーバー）永井　純、日隈　広至、岡田　晃

５．議　題

●決議事項

第１号議案：2027年度主要競技会日程について

第２号議案：FISUユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）クロスカントリーランニング日本代表選手選考委員会委員について

第３号議案：2027年日本学生陸上競技個人選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ夏季競技大会（2027/忠清道）日本代表選手選考について

第４号議案：2026全日本大学女子選抜駅伝競走について

第５号議案：正会員について（中四国学連）

第６号議案：委員会委員について（強化委員）

第７号議案：普通会員の登録数について

第８号議案：その他

●報告事項

①会務の報告

②日本学連創立100周年記念事業について（2028年）

③ファンドレイジング分科会について

④その他

６．議事の経過およびその結果

（１）定足数の確認／議長および議事録署名人の選出

（２）議案の審議および議決結果等

第１号議題　2027年度主要競技会日程について（大後専務理事）

資料に基づき2027年度主要競技会日程について説

向上と進展会報177.indd 20　2026/10/20 13:32

明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第２号議案　FISUユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）クロスカントリーランニング日本代表選手選考委員会委員について（大後専務理事）

これまで世界大学クロスカントリー選手権として独立していた大会が、今年１月にイタリアで開催された大会で、次年度からＷＵＧ冬季大会に組み込まれることが示され、その後ＪＯＣを通じて正式に通達された。強化委員会で何度か選考方法を検討してきたが、ＪＯＣ・日本陸連から派遣人数の回答がなく、９月中旬の現地団長会議で最終決定する見込み。選考競技会を設けることが難しいため、ＷＡのリザルトスコアで決めていくこととし、インカレの記録も選考に含まれることを選手に事前に周知するため、８月31日付で日本学連ホームページに方針を公表した。

【山下常務理事・強化委員長】大会名はユニバーシアード冬季大会。ＪＯＣからの派遣となり、選手派遣費用はJOC負担となる。日程は１月15日からで陸上クロスカントリーは17～18日の２日間。種目はショート3.7km、ロング6.9km、混合リレー1.6km×４。派遣資格はＷＵＧ同等で、日本国籍、学生であれば４年生も可。従来の大学クロカンは３年生までとしていた。

選考方針として、まず選考競技会は設けない。日本インカレを含める案もあったが、後出しになることやエントリー状況等から難しいと判断。次に、1500ｍ・5000ｍ・3000ｍ障害を選考種目とし、有効期間内のシーズンベスト上位２記録の平均をＷＡリザルトスコアに換算して評価。さらに手順としては、ショート種目には1500ｍ・3000ｍ障害のスコア上位者、ロング種目には5000ｍのスコア上位者を選ぶ想定。派遣人数が未定のため、本日は選考方針の承認にとどめたい。

選考委員について、委員は山下強化委員長、安井強化委員長補佐、大後専務理事、女子長距離担当、男子長距離担当、中距離担当から各２名、オブザーバーに工藤常務理事、および日本陸連より、前回のＷＵＧ選考時と同様に陸連強化担当者を含む。

【松本会長】手順としては、代表選手を派遣すること、派遣人数は未定なので選考競技会は設けずリザルトスコアで選考すること、選考委員会で選考し、決めたものを理事会で確定する、ということでよいか。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第３号議案　2027年日本学生陸上競技個人選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ夏季競技大会（2027/忠清道）日本代表選手選考について（山下強化委員長）

期日は2027年４月23日（金）～25日（日）。この中で個人選手権とＷＵＧ選考競技会を実施。競技種目：通常の個人選手権の種目に加え、ＷＵＧ選考競技会として十種競技・七種競技を同時開催。10000ｍについては、かつて別の競技会で選考した経緯があり、長距離関係の強化委員から、10000ｍと5000ｍを兼ねる選手にそれぞれチャンスを与えたいとの話や、10000ｍのエントリーが２名だった年もあり、より競技レベルの高いところから選びたい、との意見があり集約できていないため調整中。また、今年は個人選手権で10000ｍを日本インカレから分離開催した実績があり、その参加資格もインカレ後に再検討する作業が残っている。その他の大きな変更点は特になし。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第４号議案　2026全日本大学女子選抜駅伝競走について（大後専務理事、大西事務局長）

昨年度まで特別協賛いただいていたスズキ自動車が降りることになり、一時は大会の継続が危ぶまれたが、前田道路が特別協賛に入り2026年大会は継続できることになった。ただし、フジテレビからは大会運営費を大幅に削減しなければ継続できないと言われている。学連としては今年なんとか継続し次年度につなげるため、削れるところは削る思いで予算を詰めてきた。

要項上の主な変更としては、まず毎年編成していた「全日本大学選抜チーム」について今年度は編成しない。次に出場チームの宿泊費および食事代は各チームの負担とする。ただし単独チームには強化費は支給。さらに、静岡県学生選抜チームは地元関係団体が負担することになり今年度は編成する。

収支予算書に関して、現状赤字の状態である。今後各運営団体で協議会を作り、限りなくゼロに近づける努力をすることを条件に実行委員会で承認いただいたもの。

今後フジテレビ・ＦＣＣ・３行政・テレビ静岡で

向上と進展会報177.indd 21　2026/10/20 13:32

詳細を精査し、最終的にゼロないし若干の繰越が残るように努力する。これまで理事会に予算案を提案したことはなかったが、万が一に備え理事会と状況を共有しながら準備にあたりたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第５号議案　正会員について（中四国学連）（大西事務局長）

中四国学連の学生の正会員が１名退会となったため代わりの学生が正会員となる。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第６号議案　強化委員会委員について（山下常務理事・強化委員長）

これまで中長距離部長を務めていた大後委員が専務理事となったため、部長の交代。さらに女子長距離担当を１名追加する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第７号議案　普通会員の登録数について　（大後専務理事）

８月31日現在で21,840名。どの地区学連も増加しており、学連としてありがたい。コロナ禍以降どのような要因で増えたのかを各地区学連で分析し、報告してもらいたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

《報告事項》

①会務の報告

資料に基づき前回理事会以降の会務の報告について報告があった。

【山下常務理事・強化委員長】資料のとおり。ユニバーシアード冬季大会に組み込まれたクロスカントリー選考の作業で何回か会合を持った。直近では日本インカレの番組編成会議があった。C資格について意見が出ており、具体的には今回のインカレにおいてターゲットナンバーで出場人数制限を設けているが、A標準を突破していても出場できなかった種目が出てしまった。強化としては大変残念。C資格の扱いについては、具体的には混成競技の強化委員からこの会議の前に意見があり、今後改めて検討したい。

【羽田常務理事・競技会運営委員長】４月の個人選手権以降、６月に実施予定だった実業団対学生の準備、明日から始まる日本インカレの準備を進めてきた。日産スタジアムのような大規模会場での開催は久しぶりで不安な点が多く、委員会を開くとともに下見に３度来て打ち合わせを重ねた。物品も確認し、特に投てき物は昔のままで使えるものがほぼなかったため購入してもらい、明日からの競技会ではほとんど新品の投てき物を使用する。最近になっても運営に関して要望が出るなど、どこまでスムーズにできるか不安もあり、バタバタするかもしれないがご協力をお願いしたい。C資格については、A標準を切っていても上限人数を超えて出場できない選手が数名出た。ほとんどの種目で参加上限に達するくらいのエントリーがあり、３日間日程の中で大変なところが増えている。今回のインカレを踏まえ、運営面・資格面ともに検討すべき点が多いと感じており、今後意見をいただきたい。

【障子副会長・総務委員長】本日のインカレに向けた準備がメイン。総務委員会は学生のサポートが中心。この競技場は非常に広く管理が大変。車の出入り制限もかなり行っており駐車場等の管理も総務委員会が担当。学生ともども無事に３日間を乗り切りたい。

②日本学連創立100周年記念事業について（2028年）（大後専務理事）

２年後の2028年５月27日に日本学連は創立100周年を迎える。企画委員会の下に準備分科会を設けた。８月25日に第１回打ち合わせを行い、記念誌の発行、祝賀会の開催を行う方向性を確認した。記念誌・祝賀会の進め方のほか、学連の歌「われら陸上の花」について100周年にあたり吹き替え（新録音）等をしてはどうかとの意見が出た。

【補足説明/大西事務局長】「われら陸上の花」は30周年記念事業の際に報知新聞社から学連にプレゼントされた経緯があり、今回のプログラムにその経緯を掲載している。今後、分科会委員を記念誌発行部隊と祝賀会準備部隊に分けてミーティングを重ねて詰めていく。祝賀会は過去70・80・90周年で開催しており記録で確認できるが、100周年をどうするか。ホテルで行う案などいろいろ考えられる。過去の周年パーティーはインカレに合わせて対応してきた流れがあり、ひとつの考え方として日本インカレ開催時にその競技場内で行う案がある。インカレと同時開催であれば多くの方が参加しやすく、準備日を入れて５日間の初日等に行うタイミングもよい。ホテルで別途開催すると参加者の負担にもなる。記念誌

向上と進展会報177.indd 22　2026/10/20 13:32

は単純な記録の掲載だけでなく座談会などの企画を考えたい。

③ファンドレイジング分科会について（大後専務理事）

会長が掲げた３本柱のひとつである「財政基盤の強化」に関わる取り組み。昨年12月に三井住友のプロボノプロジェクトがあり、皆さんのアンケートも含めて「日本学連が抱える今後の課題」がまとめられた。学生幹事・各理事からは、１．競技会に関わる方々の手当の改善、２．大会ＰＲの積極化、３．学生アスリートの強化と指導者・学生幹事の研修を含む海外派遣、４．事務局の強化などの要望が約６～８割と多数意見。いずれも資金が必要であり、財政基盤強化のため資金調達を組織として積極的に行う必要がある。これまで知恵はあっても組織として動けなかった。分科会は企画委員会の下に置き、委員は資料のとおり。８月24日に第１回打ち合わせを行った。学生競技団体・公益団体としての枠組みに即した考え方は大事だが、それが自分たちの活動を自重する方向に働くのではなく、2025年改訂スポーツ基本法やスポーツ産業化に関する答申も踏まえ、資金獲得に向けて動いていく。どの項目にどれだけの予算が必要かは事務局が取りまとめ中で、近々第２回を開催する。富士山女子駅伝の協賛社交代のように資金面の苦しみは各所にあり、資金調達を組織としてしっかり行いたい。

【補足説明/河野事務局次長】分科会の全体像は専務理事の報告のとおりで、事務局としてはそれをどう着地させ前に進めるかで力を発揮したい。打ち合わせに際し過去５年間の収支を整理したところ、収入と支出が同じようなペースで増えており、なんとか黒字を確保してきたが、インカレの特別協賛や個人選手権の協賛がなければ完全な赤字になる状況が分かった。「何がどのくらいあれば前に進められるのか」を分科会で相談し、理事会で審議いただきながら進めたい。現状のマーケティング・ファンドレイジングとしては、協賛、補助金、寄付がある。さらに広告会社から共同企画の提案など水面下で動いているものもある。学連の価値をどう発信し興味を持ってもらう企業や人を増やすかという広報活動も併せて分科会で進める。

④その他

河野事務局次長より不服申し立て事案について資料に基づき報告があった。筑波大学陸上競技部の過去の競技会不正に関する処分について、日本学連の処分ではなく関東学連の主催競技会参加禁止処分に対する申立て。大学の代理人からの申立理由書、関東学連からの答弁書等のやり取りを進めている段階で、現時点で決まったことはない。

工藤常務理事・法務担当より補足説明があった。

【大西事務局長】富士山女子駅伝の会計処理について補足。今大会からインボイスを取得し、経理処理を行う予定。

【長澤理事】強化委員会、競技会運営委員会の報告でＣ資格の検討に触れていたが、Ｃ資格は日本インカレ開催にあたり大事な資格という認識があったはず。その上でＡ資格でも参加できないという報告があった一方、Ｂ資格に触れていないのが疑問。Ｂ資格でどれくらい参加しているのか、Ｂ資格で参加して決勝に残ることがあるのか、という検討が報告になかった。インカレを地方で開催してもらう際に説明する上でも、記録によるＡ資格と地区で優勝するというＣ資格は説明しやすいが、ターゲットナンバーがあってＢ資格があるというのは分かりにくい。分かりやすくするためにはＡ資格とＣ資格だけでよいのではないかという持論を持っている。今後の検討をお願いしたい。

【細萱監事】日本学連としての暑熱対策で注意点があれば伺いたい。最近、インターハイの振り返りが報道され、今後の方針が議論されている。今年の日本インカレは涼しく、日産スタジアムは屋根もあり比較的リスクの低い会場だが、インターハイではサブトラックでもWBGT31度以上では使わせないという徹底ぶりだった。いたずらに規制を強化すべきという意見ではないが、メディアの関心も高く潜在的なリスクもあるので、議論している点があれば理事会で共有した方がよい。

【障子副会長・総務委員長】インターハイと全中は真夏の７～８月開催で、青少年の身体への影響を考え長期間議論した結果、日本陸連は今回の形とした経緯がある。今年の日本ICは涼しいが、例年であれば暑い時期で対策は必要。競技場からファンを借りるほか、業者の協力によりミストファン・送風機を安価に提供いただき、フィニッシュ付近やフィールド内に設置した。学生はトランシーバーを持ち、何かあればすぐ動ける体制。

【羽田常務理事・競技会運営委員長】ミストファン等は総務委員会と連携し数多くレンタルした。競技日

向上と進展会報177.indd　23　2026/10/20　13:32

程は暑い時間帯を避けられるよう検討したが、３日間でこれだけの種目・上限までの出場者があると難しい面がある。トラック種目は昼の暑くなる時間帯に１時間程度何もしない時間を設け、その分終了が遅くなるため日産スタジアム・神奈川陸協に遅くまでお願いし、朝は早めに開始する形とした。フィールド種目は数が多く混成競技もあるため昼間に実施せざるを得ない。競技役員と学生補助員はこれまで以上に人数を多くし、グループ編成・ローテーションを組んで休む時間を確保するよう運用。完璧とは言えないができる限りの対策をして臨む。今回は暑さより雨の方が心配で、そちらの対策が必要かもしれない。

【山下常務理事・強化委員長】今回反映できなかったが、競技日程が３日間という厳しい制約の中にある。できれば3.5日または４日間とすれば暑熱対策も今以上にできると議論・提案してきた。今後の課題として、競技者に負担の少ないタイムテーブルを検討いただきたい。

【工藤常務理事】自分もフルバージョンでの開催を切に願うが、インターハイがあのような開催形態になった現実がある。何かあった時にインターハイと比較して「インターハイはああしているのになぜインカレはこうなのか」と確実に比較される社会情勢になっている。今回たまたま涼しくて大丈夫という雰囲気になるのが逆に怖い。「９月だからいい」は世間には通じず、最終的にはWBGT等の数値基準で評価され、基準を上回る時間帯に実施していれば同じ対応をすべきだったと言われるに決まっている。インターハイ並みにするならラウンド数を減らす・タイムレース決勝にするなどになり、現場の学生・指導者は嫌がるだろうが、責任ある団体としてどうするか、時期をずらす案も含め複数案を比較検討して解を見つけていく必要がある、という話を企画委員会ではしている。

【片平理事】九州学連より今年３月に鹿屋体育大学陸上競技部で発生した不祥事について報告と謝罪があった。

【松本会長】各地区学連においても未成年の飲酒、最近ではパワハラ・暴力など、指導・協力をお願いしたい。

【工藤常務理事】日本学連の処分規程は処分対象行為に「法令に違反する行為」を含んでおり、理屈上は本件も日本学連として処分を課しうる案件。ただし内容やその後の大学・部の対応に照らし、日本学連として追加処分を課す必要はなかろうという結論になろうと倫理委員会でも考えている。今後同様の案件があれば各地区学連でも同様の手続きを踏まえていただきたい。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時25分、議長は閉会を宣し、解散した。

向上と進展会報177.indd 24　2026/10/20 13:32

資料

ユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）クロスカントリーランニング競技代表選手選考方針について

拝啓　平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記の件につきまして、2027年1月に中国・長春で開催されますユニバーシアード冬季競技大会におけるクロスカントリーランニング競技に、派遣数は未定ながら、代表選手を派遣することとなりました。

敬具

記

1. 大 会 名　：ユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）

2. 日　　程　：2027年（令和9年）1月15日～25日
※クロスカントリーランニング競技は17日、18日の2日間

3. 派遣競技　：男女とも個人ショート3.7km、個人ロング6.9km、団体男女混合リレー1.6km×4（男子2名、女子2名）

4. 選考基本条件：日本国籍を有しFISU（世界大学スポーツ連盟）が定める基本条件等を満たし、かつ、2026年度日本学連普通会員登録を選考対象とする（日本学連・普通会員の資格に関する規程参照）。ただし、日本国籍を有し海外の大学に留学をしている場合は日本学連普通会員登録がなくても選考対象とする。
　なお、選手の参加年齢条件は、満18歳～28歳以下（2027 年末時点。1999年1月1日から2009年12月31日までに生まれた者）

5. 選考方針　：選考競技会は設けず、1500m、5000m、3000mSCを選考種目とし、有効期間内の記録のWAリザルトスコア（ポイント）*を評価基準として選考する（有効期間は2026年1月1日から10月中旬までを検討中）
*Performance Score（パフォーマンススコア）ではなく、Result Score（記録スコア）を評価対象とする。

6. 選考要項　：（日本学連理事会にて確定し可及的速やかに公表する）

（参考）　https://worldathletics.org/download/download?filename=4f77dcb3-2945-4c58-ad8b-955a999b13e8.pdf&urlslug=World%20Athletics%20Scoring%20Tables%20of%20Athletics

資料

ユニバーシアード冬季競技大会（2027 ／長春）日本代表選手選考委員について
選考会議：令和８年10月19日（月）　オンラインにて開催予定

ユニバーシアード冬季競技大会（2027 ／長春）選手選考委員会（案）

1	委員長	山下　　誠	強化委員長	
2	副委員長	安井　年文	強化委員長補佐	
3	副委員長	大後　栄治	専務理事	
4	委員	米田　勝朗	強化委員（中・長距離部）	女子担当
5	委員	十倉　みゆき	強化委員（中・長距離部）	女子担当
6	委員	中野　孝行	強化委員（中・長距離部）	男子担当
7	委員	前田　康弘	強化委員（中・長距離部）	男子担当
8	委員	松井　一樹	強化委員（中・長距離部）	中距離担当
9	委員	吉岡　利貢	強化委員（中・長距離部）	中距離担当
10	オブザーバー	工藤　洋治	常務理事／法務担当	
11			日本陸連　強化担当者（予定）	

※選考会議を経て臨時理事会によりJOCへの推薦者を決定する

向上と進展会報177.indd　25　　2026/10/20　13:32

資料

2027日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2027/忠清道）日本代表選手選考競技会要項（案）
2027All Japan University Track&Field Challenge Meeting

1．主　　催　公益社団法人日本学生陸上競技連合
2．後　　援　平塚市、平塚市教育委員会
3．運営協力　一般財団法人神奈川陸上競技協会、一般社団法人関東学生陸上競技連盟
4．協　　賛
5．期　　日　2027年4月23日（金）～25日（日）
6．会　　場　レモンガススタジアム平塚（ハンマー投：未定）
7．競技種目　男子18種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000mSC、10000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
女子18種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、100mH、400mH、3000mSC、10000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
※上記に加えて、WUG代表選手選考競技会として以下２種目を実施
十種競技、七種競技、※10000ｍ（男女）は後日発表
※本大会はWRk申請大会となります。
8．競技実施日　本連合HPに掲載する。
9．参加資格　1）2027年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員であって、2026年1月1日（木）から2027年3月21日（日）の期間に標準記録（本連合HPに掲載する）を突破しており、WUG日本代表選手として選考された場合は、出場の意思を有する者。
2）出場を希望する国外の大学生で本連合の承認を得た者。
※各大学1種目あたりの参加人数制限は設けない。
※個人の参加種目数の制限は設けない。
※全部または一部の種目に出場人数制限を設ける場合がある。
10. 参加料　参加者1種目1名につき3500円、混成種目は5000円とする。
※参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
11. 申込方法　本大会は個人エントリーとなる。参加者は、本連合HPに掲載された参加申込フォームに必要事項を入力し、2027年3月15日（月）から2027年3月28日（日）までの期間に日本学生陸上競技連合へ申し込むこと。また、参加料は参加申込フォームに記載された手順に従い、申し込みの際に納入すること。
12. 競技について　1）競技は2027年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により実施する。なお、広告規程は全て国内規程にて実施する。
2）競技に使用する用具は主催者側が用意したものを使用しなければならない。
ただし、棒高跳用ポールおよび投てき物は個人所有のものが使用できる。投てき物はTR32.2〔国際〕を適用し主催者が用意した投てき物リストにあるものでも使用できるが、日本陸連承認品かつWA承認品であり、主催者の検査を受けて許可されたものに限る。
3）競技用靴については、WAの承認靴リストに記載された靴のみ使用することができる。 未承認の靴を使用した場合は失格となる。
※サークルから行われる投てき種目（砲丸投、円盤投、ハンマー投）については、適用対象から除外とする。
4）本大会ではB決勝は実施しない。
13. 式　　典　開式：4月23日（金）　競技開始前　　閉式：4月25日（日）　競技終了後
14. 表　　彰　1）選手権種目第1位から第3位までの入賞者には賞状、メダルおよび副賞として奨励金を、第4位から第8位までの入賞者には賞状を授与する。奨励金授与は日本学連普通会員を対象とする。
3）WUG選考種目の混成種目について表彰は実施しない。
15. ドーピングコントロール
1）本競技会は、ワールドアスレティクス（WA）アンチ・ドーピング規則および規程もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づく競技会（時）ドーピング検査対象大会である。競技会（時）検査は、大会前日23時59分から検査が終了するまでの期間であり、尿または血液（あるいは両方）の採取が行われる。検査の対象に選ばれた該当者は、検査員の指示に従って検査を受けること（競技／運動終了から1時間の安静後に採血が行われることもあるので留意すること）。日本陸上競技連盟に登録していない外国人競技者も同様に従うこと。
2）競技会（時）検査の対象となった場合、原則として顔写真付きの身分証明書が必要となる。大会のIDカードやナンバーカードとともに、顔写真のついた学生証、運転免許証、または顔写真が鮮明なパスポートのコピーなどを持参すること。
3）技会参加者は、競技会にエントリーした時点で日本アンチ・ドーピング規程に従いドーピング検査の対象となることに同意したものとみなす。したがって、本競技会参加者 はドーピング検査（尿・血液等検体の種類を問わず）を拒否または回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドー

向上と進展会報177.indd 26　2026/10/20 13:32

ピング検査手続を完了することができなかった場合等は、アンチ･ドーピング規則違反となる可能性がある。アンチ・ドーピング規則違反と判断された場合には、日本アンチ・ドーピング規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。

4) 本競技会参加者は、JADAクリーンスポーツ・アスリートサイト（https://www.realchampion.jp）などを利用して、アンチ・ドーピングについて事前に学習しなければならない。また本競技会においては、希望者が自由に参加可能な「アウトリーチ・プログラム」を実施し、アンチ・ドーピングについて学ぶことのできる機会を設けるので、ふるって参加されたい。

5) TUE申請：禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例（TUE）”の申請を行わなければならない。詳細は、日本陸上競技連盟医事委員会HP（https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/）または日本アンチ・ドーピング機構のHP（https://www.realchampion.jp/resources/000162.html）および本連合HP（https://www.iuau.jp/index.html/）内の「知っておきたいアンチ・ドーピングの知識2027年版」を確認すること。禁止物質・禁止方法についてTUEが付与されている場合には、その証明書（コピーで可）をドーピング検査の際に担当検査員へ提出すること。

16. 個人情報の取り扱いについて

1）大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者が承認した第三者が、大会運営および宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。大会の映像は、主催者の許可なく、第三者がこれを使用すること（インターネット上において画像や動画を配信することを含む）を禁止する。

2）主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成並びに作成、記録発表、公式HPその他競技運営および陸上競技に必要な連絡等に利用する。

17. その他

1）本大会は、スポーツ振興基金助成金を受けて実施する。

2）競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側において行うが、それ以後の責任は一切負わない。但し、9. 参加資格１）の該当者は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

18. 問合せ先　公益社団法人日本学生陸上競技連合　事務局　〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-58-11　中沢ビル2階
Eメール：juauj@joy.ocn.ne.jp

資料　2026全日本大学女子選抜駅伝競走　大会要項

1．主　催　公益社団法人日本学生陸上競技連合

2．共　催　静岡県、富士市、富士宮市

3．後　援　スポーツ庁（予定）、静岡県教育委員会、富士市教育委員会、富士宮市教育委員会、
公益財団法人静岡県スポーツ協会、富士市スポーツ協会、ＮＰＯ法人富士宮市スポーツ協会、
フジテレビジョン、産経新聞社、サンケイスポーツ、ニッポン放送、テレビ静岡

4．運　営　全日本大学女子選抜駅伝競走実行委員会

5．運営協力　東海学生陸上競技連盟、一般財団法人静岡陸上競技協会、静岡東部陸上競技協会、静岡県警察本部、
富士警察署、富士宮警察署

6．特別協賛　前田道路株式会社

7．協　賛

8．期　日　2026年12月30日（水）10時00分スタート

9．日　程

出場校受付	2026年12月29日（火）12時00分～12時30分	富士市文化会館（ロゼシアター）
監督会議	2026年12月29日（火）13時00分	富士市文化会館（ロゼシアター）
プレスインタビュー	2026年12月29日（火）14時00分	富士市文化会館（ロゼシアター）
開会式	2026年12月29日（火）15時00分	富士市文化会館（ロゼシアター）
閉会式	2026年12月30日（水）13時00分頃	富士総合運動公園陸上競技場

10. コース　スタート：富士山本宮浅間大社前～フィニッシュ：富士総合運動公園陸上競技場
7区間43.4km

1区（4.1km）	第1中継所	富士山本宮浅間大社前
2区（6.8km）	第2中継所	㈱石井鉄工所前
3区（3.3km）	第3中継所	富士市交流プラザ前
4区（4.4km）	第4中継所	富士市クリーンセンターききょう前
5区（10.5km）	第5中継所	ジヤトコ本社前
6区（6.0km）	第6中継所	遠州トラック㈱駐車場前
7区（8.3km）	フィニッシュ	富士総合運動公園陸上競技場

11. 参加資格　2026年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員

1）第44回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の参加を希望する上位12チーム

向上と進展会報177.indd　27　2026/10/20　13:32

2）5000m 7名の記録による10チーム
※1:対象となる記録は、2026年4月1日～ 2026年11月29日の期間に出した記録でなければならない。なお、電気計時の記録のみ有効とする。
※2:申込選手の合計記録が同タイムの場合は、資格記録で最上位の選手がいるチームを　選出する。最上位者も同タイムの場合は、次の記録上位選手の記録を比較し、順次判定して選出する。
3）静岡県学生選抜チーム
静岡県内の中学校・高校を卒業した選手、または静岡県内の大学・大学院に在学する選手で編成する。
4）全日本大学選抜チーム
2026年は編成しない

12. チーム編成　1チーム11名（監督1、マネージャー1、選手9）をもって編成する。
なお、参加申込みの段階ではさらに選手3名を加えて登録することができる。

13. 申込方法　1）参加資格の項（1）の12チームは、出場意思の有無を2026年11月9日（月）までに、指定の用紙に必要事項を記入し、日本学連まで回答する。出場を希望した大学は、2026年11月30日（月）正午までに、指定の用紙に記入し、最大14名（監督1、マネージャー1、選手12）を電子メールで申し込む
2）参加資格の項（2）の10チームは、2026年11月9日（月）までに本大会への参加意思をオンラインフォームへ回答すること。回答後に配布される指定の用紙に記入し、最大14名（監督1、マネージャー1、選手12）を2026年11月30日（月）正午までに電子メールで申し込む。
3）静岡県学生選抜チームは、最大16名（単独出場大学との重複も含む選手14、
監督1、マネージャー1）で指定の用紙に記入し2026年12月4日（金）正午までに電子メールで申し込む。
＜申込先＞
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1－58－11　中沢ビル2F日本学生陸上競技連合　宛
TEL：03-5304-5542　FAX：03-5304-5569　E-mail：juauj@joy.ocn.ne.jp
※メンバーエントリー（正選手7名、補員2名）については、オーダー用紙1部と健康に関する誓約書（選手1名につき1部提出）を2026年12月29日（火）12時00分～ 12時30分までに、大会事務局＜出場チーム受付：富士市文化会館（ロゼシアター）4階会議室＞に持参し提出する。

14. 表　　彰

優　勝	文部科学大臣杯、日本学生陸上競技連合会長杯静岡県知事楯、富士市長杯、富士宮市長杯、賞状、メダル
2位、3位	日本学生陸上競技連合・賞状、トロフィー、メダル
4位～8位	日本学生陸上競技連合・賞状、トロフィー
区間賞	日本学生陸上競技連合・賞状、楯
優秀指導者賞	日本学生陸上競技連合・賞状、楯

15. 注意事項　1）競技は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則・駅伝競走規準及び本競走申し合わせ事項、並びに「本連合主催の駅伝大会に関する規約」により実施する。
2）競技中に発生した傷害・疾病についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2026年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

16. その他　1）2026年度の大会において、出場チームの宿泊費および食事代は各チームの負担とする。
2）別途定める規定により、単独チームには強化費を支給する。
※静岡県学生選抜チームに関わる経費については地元関係団体が負担する。
3）主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
4）大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
5）個人情報は、感染症予防対策目的に使用し、保健所、医療機関など第三者へ情報を提供することがある。
6）感染症に対するいかなる責任も主催者は負わない。
7）本大会は、フジテレビジョン系列28局で全国中継生放送を行う。
8）本競走は「富士山女子駅伝」を正式略称とする。
9）たすきは各チームで同様のもの2本用意すること。長さ1.6m ～ 1.8m、幅6cmを標準とする。なお、繰り上げ用のたすきは主催者が用意する。
10）公道に目印として直接マーキングすることは厳禁とする。

向上と進展会報177.indd 28　2026/10/20 13:32

資料　執行役員による職務執行の状況報告（2026/5/16以降）

月　日	行　事（報告内容）
5月16日（土）	第79回理事会　於：日本学連事務所・オンライン併用
5月18日（月）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
5月19日（火）	出雲駅伝実行委員会事前打ち合わせ会議　於：日本学連事務所
5月20日（水）	株式会社明治/2026年度協賛に関するミーティング　於：株式会社明治
5月20日（水）	富士山女子駅伝対策会議（広告代理店）　於：日本学連事務所
5月25日（月）	SMBC/2026年度協賛メニュー（日本IC）に関するミーティング　オンライン会議
5月25日（月）	第66回実業団・学生対抗陸上 実行委員会　於：市ヶ谷TKP会議室
5月26日（火）	第44回全日本大学女子駅伝実行委員会　於：仙台市
5月27日（水）	広告代理店/新規企画（マーケティング）ミーティング　於：日本学連事務所
5月28日（木）	全日本大学駅伝・朝日新聞ミーティング　於：日本学連事務所
5月28日（木）	競技会運営委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
5月29日（金）	2026年度出雲駅伝スタート時間に関するリリース
6月01日（月）	2026富士山女子駅伝対策会議（FCC）　於：日本学連事務所
6月04日（木）	FISUユニバーシアード冬季大会対策会議　オンライン会議
6月04日（木）	倫理委員会　オンライン会議
6月05日（金）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
6月11日（木）	定時社員総会・理事会準備ミーティング　オンライン会議
6月15日（月）	出雲駅伝対策ミーティング　オンライン会議
6月17日（水）	総務委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
6月19日（金）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
6月20日（土）	第18回定時社員総会　於：日本学連事務所・オンライン併用
6月20日（土）	第80回理事会　於：日本学連事務所・オンライン併用
6月24日（水）	全日本大学駅伝・朝日新聞ミーティング　於：JR東海（品川）
6月24日（水）	第30回日本学生ハーフマラソン選手権・事務局ミーティング　於：日本学連事務所
6月25日（木）	第58回実学対抗陸上開催検討会議　オンライン会議
6月30日（火）	新旧専務理事・事務局ミーティング　オンライン会議
7月01日（水）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
7月02日（木）	競技会運営委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
7月03日（金）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
7月03日（金）	2027FISUクロスカントリー対策ミーティング　オンライン会議
7月06日（月）	日本実業団陸上連合情報交換ミーティング　於：日本学連事務所
7月08日（水）	日産スタジアム下見　於：横浜・日産スタジアム
7月08日（水）～09日（木）	日本学生女子ハーフマラソン/松江・出雲駅伝/出雲　実行委員会　於：松江市・出雲市
7月10日（金）	全日本大学駅伝・ADKミーティング　於：日本学連事務所
7月13日（月）	強化委員会・中長距離部会　オンライン会議
7月14日（火）	全日本大学駅伝・長谷工ミーティング　於：JR東海（品川）
7月15日（水）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
7月17日（金）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
7月17日（金）	日本IC/神奈川陸協打合せ　於：横浜市開港記念会館
7月22日（水）	マーケティング企画ミーティング　於：日本学連事務所
7月22日（水）	95日本IC・報道部会①　於：日本学連事務所・オンライン併用
7月23日（木）	全日本大学駅伝マーケティング活動　於：シチズン本社
7月27日（月）	総務委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
7月31日（金）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
7月31日（金）	全日本大学駅伝・ADKミーティング　於：日本学連事務所
7月31日（金）	日本実業団陸上連合情報交換ミーティング　於：日本学連事務所
8月03日（月）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
8月04日（火）	マーケティング企画ミーティング　於：日本学連事務所
8月04日（火）	医事委員会　オンライン会議
8月10日（月）	全日本大学駅伝・朝日新聞社ミーティング　於：日本学連事務所
8月13日（月）	日本IC EP会議　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月18日（火）	強化委員会・中長距離部会（ユニバーシアード）　オンライン会議
8月18日（火）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
8月18日（火）	総務委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月18日（火）	日本IC 番組編成会議　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月19日（水）	日産スタジアム下見　於：横浜・日産スタジアム
8月24日（月）	ファンドレイジング・キックオフミーティング　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月25日（火）	日本学連創立100周年実行委員会　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月25日（火）	日本IC/SMBC企画・準備ミーティング　オンライン会議
8月26日（水）	富士山女子駅伝対策会議（フジテレビ幹事）　オンライン会議
8月26日（水）	日本IC審判主任者会議　於：横浜市開港記念会館
8月27日（木）	95日本IC・報道部会②　於：日本学連事務所・オンライン併用
8月28日（金）	企画委員会事前ミーティング
8月31日（月）	企画委員会　オンライン会議
9月01日（火）	第1回富士山女子駅伝実行委員会　オンライン会議
9月03日（木）	全日本大学駅伝運営会議　オンライン会議
9月04日（金）	理事会

向上と進展会報177.indd　29　2026/10/20　13:32

資料　日本学生陸上競技連合100周年記念事業に向けて

2028年（令和10年）5月27日、日本学生陸上競技連合は100周年を迎えます。そこで、この100周年の記念事業に向けた準備分科会を設置し、2年かけて準備を進めていきます。

1．準備分科会委員（2026年度）

・大後　栄治（専務理事／分科会長）
・障子　　恵（副会長・総務委員長／副分科会長）
・永井　　純（顧問・専務理事補佐）
・山下　　誠（常務理事・強化委員長）
・羽田　雄一（常務理事・競技会運営院長）
・岡田　　晃（総務副委員長）
・長井　　健（総務副委員長）
・桑原　悠真（幹事長）
・河本　賀帆（副幹事長）
・露木　彰映（常任幹事）
・大西　清司（事務局長）
・河野　　匠（事務局）

2．初回打合せについて

去る8月25日（火）19:00よりオンラインにて打合せを行い、100周年事業として以下の二本柱で進めることを確認しました。

①記念誌（百周年誌）の発行
②祝賀会の開催

それぞれに担当チームを編成し、準備を進めていきます。

まず、記念誌についてはこれまで40周年、70周年、80周年、90周年に発行していますが、70周年に大きく整理し、80周年と90周年は過去10年分の主催競技会をまとめる形でした。今回も90周年からの10年分をまとめた上で、過去の幹事長の座談会など100周年らしい企画を担当チームで検討し進めていきます。

次に祝賀会については70周年、80周年、90周年と記録にありますが、日本インカレ等の主催競技会にあわせて行う場合と別途開催する場合と今後検討していきます。

この他には、われら陸上の花の再録音、同年に100周年を迎える団体とのコラボなど意見が出ました。

資料　ファンドレイジング分科会について

日本学連の抱える運営基盤・財政基盤の強化という喫緊の課題について、昨年SMBCグループの方々から貴重な提言をいただきました。それに基づいて、このたびファンドレイジング分科会を専務理事の諮問機関として設立することになりました。よく使われるマーケティングという言葉ではなくファンドレイジングとしたのは、事業やサービス、広告価値の提供による事業収入（協賛金収入）だけではなく、公益法人としてご寄附や助成金、補助金、会費といった幅広い財源獲得手段を検討すべきという考え方からです。関係理事の他に総務委員や競技会運営委員、財務委員、学識経験者など学連内で幅広い方にお声掛けしています。

1．分科会委員

・大後　栄治（専務理事／分科会長）
・障子　　恵（副会長・総務委員長／副分科会長）
・日隈　広至（参与・専務理事補佐）
・工藤　洋治（法務担当常務理事）
・北井　敏雄（関西選出理事）
・増田　憲二（財務委員長）
・岡田　　晃（総務副委員長）
・大朝　　太（競技会運営副委員長）
・佐治　由佳（総務委員会オブザーバー）
・河野　　匠（事務局）

2．初回打合せについて

去る8月24日（月）19:00よりオンラインにて打合せを行いました。キックオフミーティングということで、まず事務局より過去5年間の収入と支出の推移について報告を行いました。次に、大後専務理事が運営基盤・財政基盤の強化の必要性と、学生の海外派遣、指導者の研修、大会の知名度向上などの3つの柱を挙げました。その後、委員間で他団体の実例やどのように資金を集めていくかということについて意見交換が行われました。今後、具体的な資金調達が必要な項目と予算額を専務理事と事務局が中心となって協議しまとめ、委員と議論を交わしながら進めていきたいと思います。

向上と進展会報177.indd 30　2026/10/20 13:32

【会議報告】
第82回理事会　文書決議

FISUユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）
クロスロードランニング日本代表選手選考要項について

理事会の決議があったものとみなされた日　令和８年９月18日
理事会の決議があったものとみなされた事項の提案者　専務理事　大後　栄治
議事録の作成に係わる職務を行った理事　常務理事　山下　　誠
理事総数　22名
監事総数　２名

Ⅰ. 理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
第１号議案：FISUユニバーシアード冬季競技大会（2027/長春）
クロスロードランニング日本代表選手選考要項案
（資料別添）
Ⅱ. 理事総数22名の同意書あり
Ⅲ. 監事総数２名の異議がないことを証する書類あり

資料

ユニバーシアード冬季競技大会（2027／長春）
クロスカントリーランニング競技日本代表選手選考要項（0915案）

1.編成方針

公益社団法人 日本学生陸上競技連合（以下，日本学連）は、ユニバーシアード冬季競技大会（2027／長春）のクロスカントリーランニング競技に出場する日本代表選手について、日本オリンピック委員会（以下、JOC）が定めた派遣枠を基に、本大会でメダル獲得または入賞が期待される競技者を派遣する。

2. 大会概要

(1) 大会名　ユニバーシアード冬季競技大会（2027／長春）
(2) 開催期間　　2027年（令和9年）1月15日～25日
(3) 開催地　中国・長春
(4) 競技日程　　クロスカントリーランニング競技は１月17日、18日の２日間　（派遣は1月14日～20日を予定）
(5) 実施種目男女とも、個人ショート3.7km、個人ロング6.9km、男女混合リレー1.6km×4（男子2名、女子2名）
※派遣人数枠は現時点で未定

3. 選考対象者

日本国籍を有し、FISU（世界大学スポーツ連盟）が定める参加資格等を満たし、かつ、2026年度日本学連普通会員登録をしている競技者を選考対象とする。ただし、日本国籍を有し海外の大学に留学している場合は、日本学連普通会員登録がなくても選考対象とする。

なお、選手の参加年齢条件は、2027年末時点で満18歳以上28歳以下（1999年1月1日から2009年12月31日までに生まれた者）とする。

4. 選考方法

選考競技会は設けない。日本学連ホームページ上に公開された申込サイトから10月18日（日）までにエントリーを済ませた有資格者を対象として，有効期間内の各選考対象種目における、各選手の1番良い記録と2番目に良い記録のWA Result Score（記録スコア）を合計した数値を評価基準として、JOCが定める派遣枠まで代表選手を選考する。

(1) 選考対象種目：選考対象記録
ショート種目：1500m、3000mSCの記録から選出
ロング種目：5000mの記録から選出
※出場希望者は、申請の際に、1500m・3000mSC・5000mの中から自身の選考対象種目を一つに特定し、有効期間内における当該種目の1番良い記録と2番目に良い記録を明記する。なお、5000mについてはトラックの記録とロードの記録とが混在してもよい。

向上と進展会報177.indd　31　　2026/10/20　13:32

※リレー種目を編成する場合は、メダル獲得の可能性を考慮し，ショート種目（1500m、3000mSC）で選出された選手からチームを編成することを基本とする。
※WA　Performance Score（パフォーマンススコア）は使用せず、Result Score（記録スコア）を基準とする。
※ロード競技の公認記録も対象とする。
※同一種目でスコアが同点の場合は、上位記録のスコアが高い選手を優先する。
※選考対象となる記録は、WRk競技会に限らず、有効期間内の公認記録を対象とする。

(2) 選考手順

派遣枠に対して、ショート種目（1500m・3000mSC）とロング種目（5000m）から、原則として同数ずつ選出する。

①派遣枠が偶数の場合

ショート種目とロング種目から同数を選出する。

②派遣枠が奇数の場合

ショート種目とロング種目を可能な限り均等に配分し、残る１名は、申請した種目のResult Score（記録スコア）合計値の最も高い者を選出する.

③ショート種目の選出人数が奇数となる場合

1500mと3000mSCから可能な限り同数を選出し、残る１名は、申請した種目のResult Score（記録スコア）合計値の最も高い者を選出する.

例１:派遣枠数が８名の場合…ショート種目４名・ロング種目４名。ショート種目４名は1500mと3000mSCから２名ずつ選出。

例２::派遣枠数が７名の場合…ショート種目３名･ロング種目３名と配分した上で、残る１名は合計スコア最上位者を選出。ショートが３名となった場合は、1500mと3000mSCから１名ずつ選出した上で、残る１名は両種目の中から合計スコア最上位者を選出。

選考対象とする記録については、出場希望者が自ら申請の際に、内容、大会名、実施日、種目等を明記する。記録の確認は、日本陸連エントリーシステムに掲載された大会結果等、その他の公に公開された情報に基づいて行う。日本学連事務局が公開情報で記録を確認できない場合は、記録証、公式リザルト、主催者発行資料等の客観的な証明書類を添えて、2026年10月18日（日）までに日本学連（juauj@joy.ocn.ne.jp）に提出することとする。期限までに提出がない場合、または提出された資料によっても記録の内容，もしくは有効性を確認できない場合は選考対象外となる。

なお、出場希望者が派遣枠数に満たなかった場合、強化委員会の推薦により選考する。

5．記録の有効期間

2026年1月1日～ 2026年10月18日

6．代表選手の決定および取消し

代表選手は、日本学連選手選考委員会議により候補者を選出し，日本学連理事会の承認を経て、JOC理事会において正式決定する。

代表選手として決定した後であっても、本大会までに故障等により競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には、代表を取り消すことがある。その場合、JOCの手続き締切前であれば、別の競技者を追加選考することがある。

7．その他

(1) 今後、FISU、JOC等によって大会の開催条件、参加資格、派遣枠その他の条件に変更があった場合は、必要に応じて選考方法を変更することがある。

(2) 天災その他の理由により本大会が延期または中止となった場合は、代表選手の内定を取り消すことがある。

(3) 本要項に定めのない事項については、日本学連強化委員会において協議し、日本学連理事会の承認を得て決定する。

以上

向上と進展会報177.indd 32　2026/10/20 13:32

◆日本学生陸上競技連合「陸上競技研究」購読者募集中

「学べる学連」を旗印に、1990年に「陸上競技研究」第１号が発行されました。この研究誌は、研究から得られた知見をコーチング現場に導入したり、逆にコーチング現場での問題点を研究によって解決しようという意欲の喚起に役立ちました。多くの総説、原著論文、研究資料、実践研究、一流競技者の育成過程をまとめた事例報告、国際競技会報告、卒業論文紹介、海外論文の紹介、海外事情など多くの読者に提供しております。これから得られる莫大な量の科学的知見が、我が国の陸上競技発展の一助になったことは間違いないと思います。昨今､購読者の減少が続いておりますが､日本学連の理念でもあります陸上競技の「向上と進展」のため、充実した発行に向け努力してまいりたいと思いますので今後ともご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

※国際標準逐次刊行物番号：ISSN 0919－9918

「陸上競技研究」発行における 令和８年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について

日本学生陸上競技連合は､「調査研究」を公益目的事業の１つとして掲げているなかで､「陸上競技研究」を年３回発行し､加盟校および購読会員の皆様にお届けしております。

令和８年度は、第141号～第143号を予定しております。本年も昨年に引き続き、スポーツ振興くじ助成（ｔｏｔｏ助成金）を受け、より充実した内容を目指して実施する予定です。この助成事業の令和８年度収支予算は以下の通りです。

【令和8年度「陸上競技研究」発行事業の収支予算書】

（収入）単位：円

科目	令和８年度	備考
くじ助成金	2,549,000	令和８年度決定
自己負担額	1,301,260	
購読者会費	700,000	
合　計	4,550,260	

（支出）

科目	令和８年度	備考
諸謝金	198,000	
旅費交通費	66,000	
消耗品費	66,000	
印刷製本費	1,515,360	助成対象経費
通信運搬費	236,500	
編集費／デザイン	2,468,400	助成対象経費
その他		
合　計	4,550,260	

向上と進展会報177.indd　33　　2026/10/20　13:32

令和８年 日本学生陸上競技連合

会員について（2026年度）

正会員　135名　　普通会員　21,840名　　賛助会員　16名

日本学生陸上競技連合　普通会員の各月変遷

単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	242	696	6,686	893	1,419	3,201	1,365	1,079	15,581
4月	342	227	1,431	216	234	297	360	368	3,475
5月	77	117	707	137	191	419	144	139	1,931
6月	15	21	204	53	41	94	63	87	578
7月	6	3	64	7	38	46	14	23	201
8月	1	2	23	19	6	33	11	5	100
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
1月									0
2月									0
退会者			−13		−3	−3		−7	−26
合計	683	1,066	9,102	1,325	1,926	4,087	1,957	1,694	21,840

増員数 2,786 名

【参考：普通会員数の推移】

令和８年８月31日現在

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2026	**683**	**1,066**	**9,102**	**1,325**	**1,926**	**4,087**	**1,957**	**1,694**	**21,840**	**1,054 ↑**	**3,275**	**1,143**
2025	650	935	8,839	1,166	1,797	3,882	1,850	1,667	20,786	917 ↑	2,612	696
2024	651	910	8,480	1,059	1,703	3,642	1,796	1,628	19,869	372 ↑	−427	413
2023	644	954	8,282	1,002	1,649	3,654	1,776	1,536	19,497	580 ↑	−1,245	923
2022	597	854	8,046	942	1,639	3,580	1,735	1,524	18,917	352 ↑	−1,866	743
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565	391 ↑	−2,132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3,419	1,600	1,475	18,174	−2,122 ↓	−1,916	933
2019	702	979	8,373	996	1,938	3,764	1,787	1,757	20,296	−446 ↓	840	3,444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	−41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205			

向上と進展会報177.indd 34　　2026/10/20 13:32

令和8年度　賛助会員（9月30日現在　五十音順、敬称略）

ご入会ありがとうございました

浅見美弥子　阿保　雅行　安藤　好郎　石黒　成彬　入江　毅　金子今朝秋　黒岩　重幸
櫻井　孝次　田中　淳浩　綱分　憲明　外山　康臣　豊岡　示朗　東川　安雄　藤井　邦夫
藤田　幸雄　外園　隆　山崎　健

令和8年度オフィシャルパートナー（9月30日現在）

公益社団法人日本学生陸上競技連合はご覧のオフィシャルパートナーの皆様にご支援いただいております。
心より感謝申し上げます。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ	株式会社明治
四国化成ホールディングス株式会社	株式会社福山
ミズノ株式会社	株式会社Qvou
マット株式会社	非破壊検査株式会社

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉賛助会員　￥10,000（1口）

※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内（３月31日）まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

［発行所］公益社団法人 日本学生陸上競技連合　〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

去る６月20日（土）の理事会にて、令和８年度・９年度の新役員が決定いたしました。会長（代表理事）には引き続き松本正之氏が選任（重任）され、会長による基本方針の発表が以下、示されました。

１．学生アスリートの競技力向上
２．日本学連と各地区学連との結束力
３．財政基盤の強化

日本学連は2012年に公益社団法人化し、これまでにも公益事業として、（１）競技会開催、（２）普及・振興、（３）指導者育成、(4) 調査研究、等の事業を積み上げてまいりました。

新体制のもと、さらなる競技力向上と安定した競技会運営を目指すべく、財政基盤強化は必須であり、対応策が求められています。

これらの課題に対処すべく、ファンドレイジング（資金調達）分科会を、また日本学連は2028年度に100周年を迎えるため、記念式典等の準備分科会を、企画委員会内に設置することを先般の理事会にてご承認いただきました。今後は皆様と協力体制を構築し、進んでまいりたいと思いますので、何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

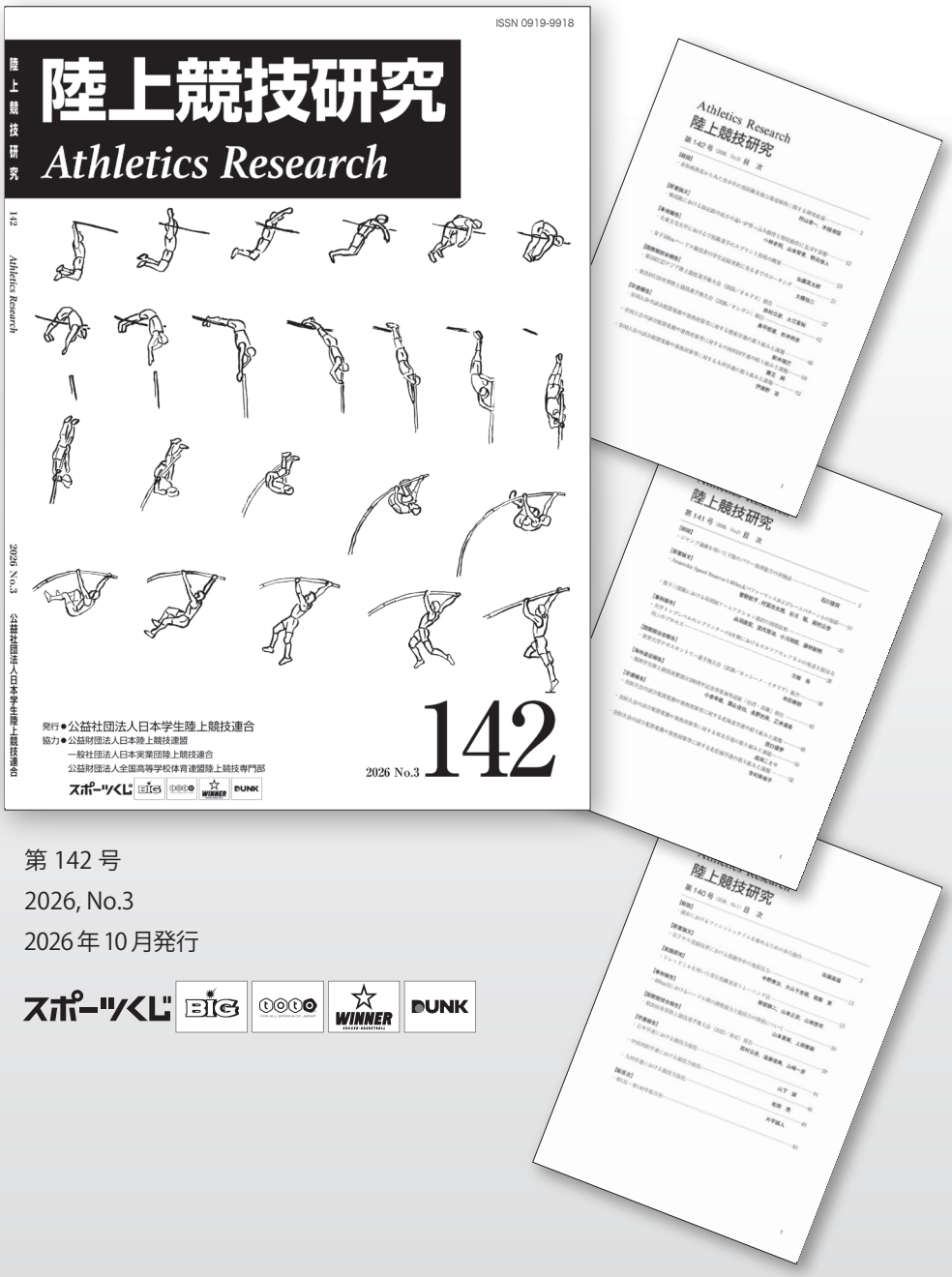
新体制まもない2026年６月27日（土）には秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会が平塚市レモンガススタジアム平塚で開催される予定でした。今年度の運営については実業団連合が対応していただいており、準備も万全でありましたが、台風７号の接近により最終的には中止の判断をいたしました。早い段階にて実業団連合、日本学連、神奈川陸協、平塚市の４者にて協議を行い、公共交通機関の状況も鑑み、前日の26日（金）に中止決定の判断ができたことは、選手・スタッフ・観客・競技役員含め混乱を避けることができたたと考えております。

９月５日（土）～７日（月）には天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会が日産スタジアム（横浜市）にて開催されました。暑熱対策に対し、さまざまな準備を進めてまいりましたが、大会２日目、３日目は豪雨となり、競技場内の安全確保、競技運営の変更等々の対応を迫られる大会となりました。大会期間中、幾度となく対策会議を開き、対応策を協議いたしました。特に一部の投てき種目において競技実施場所や用器具の関係から実施が危ぶまれる状況もありましたが、関係者のご尽力により全ての種目を最後まで実施することができました。本大会に携わられた全ての皆様方に、ご協力のお礼と感謝を申し上げます。

（専務理事　大後栄治）

向上と進展会報177.indd 35　2026/10/20 13:32

「陸上競技研究」購読のご案内



第 142 号
2026, No.3
2026年10月発行

スポーツくじ BIG toto WINNER DUNK

公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。購読会員として入会ご希望の方は , 年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号　00190-4-142923

加入者名　㈱陸上競技社　陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。
バックナンバーについては㈱陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。

※第143号（2027, No 1 ）は2027年 2 月発行予定です。

㈱陸上競技社　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 3-2-6　TEL. 03(5215)8881　FAX.03(5215)8882　http://www.rikujyokyogi.co.jp

向上と進展会報177.indd 36　2026/10/20 13:32